

「滋賀県保育士実態調査」結果について

令和元年度に実施した「滋賀県保育士実態調査」結果の概要は、以下のとおりでした。

1. 調査の目的

保育士不足の実態や保育現場の職場環境の実態、保育士として働くことへの不安や職場等に望むことなど、幅広く実態を調査・分析し、今後の効果的な保育人材確保の取組に繋げることを目的に実施しました。

2. 調査の概要

(1) 調査設計

ア. 調査対象

- ①保育施設 : 県内に所在する全保育事業者(保育所、認定こども園、地域型保育事業所)
- ②現任保育士 : 県内の保育施設(①)に勤務する全現任保育士
- ③潜在保育士 : 保育人材バンクに登録がある潜在保育士等
- ④保育士養成施設 : 県内に所在する全保育士養成施設
- ⑤保育士養成施設の学生 : 県内の保育士養成施設(④)に在学する全学生

イ. 調査方法 : 郵送配布、郵送回収

ウ. 調査期間 : 令和元年11月8日(金)から令和元年11月20日(水)まで

※ただし、締め切り後に回収された調査票も、12月17日(火)到着分までは有効票とした。

(2) 主な調査内容

- ①保育施設 : 保育士不足の現状、離職防止・就業継続の取組、ICTの導入
- ②現任保育士 : 労働環境の現状、自己研鑽のための取組、今後の就業意向
- ③潜在保育士 : 離職した理由、今後の就業意向、再就職への不安
- ④保育士養成施設 : 入学者確保の取組、学生への就職支援の取組
- ⑤保育士養成施設の学生 : 今後の就業意向、必要な支援や制度

(3) 回収結果

区分	配付数	有効回答数	有効回答率
①保育施設調査	415件	245件	59.0%
②現任保育士調査	8,682件	4,972件	57.3%
③潜在保育士調査	464件	208件	44.8%
④保育士養成施設調査	5件	5件	100.0%
⑤保育士養成施設学生調査	734件	468件	63.8%

(4) 調査結果の見方

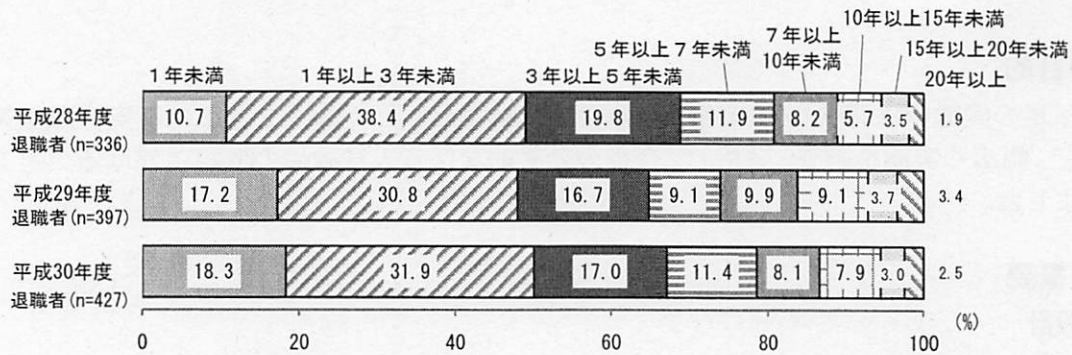
- ①回答は、各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示し、小数点第2位を四捨五入した。(比率の合計が100.0%にならない場合がある。)
- ②図表上の「MA%」という表記は複数回答、「LA%」という表記は制限つき複数回答の意味である。

3. 調査結果の概要

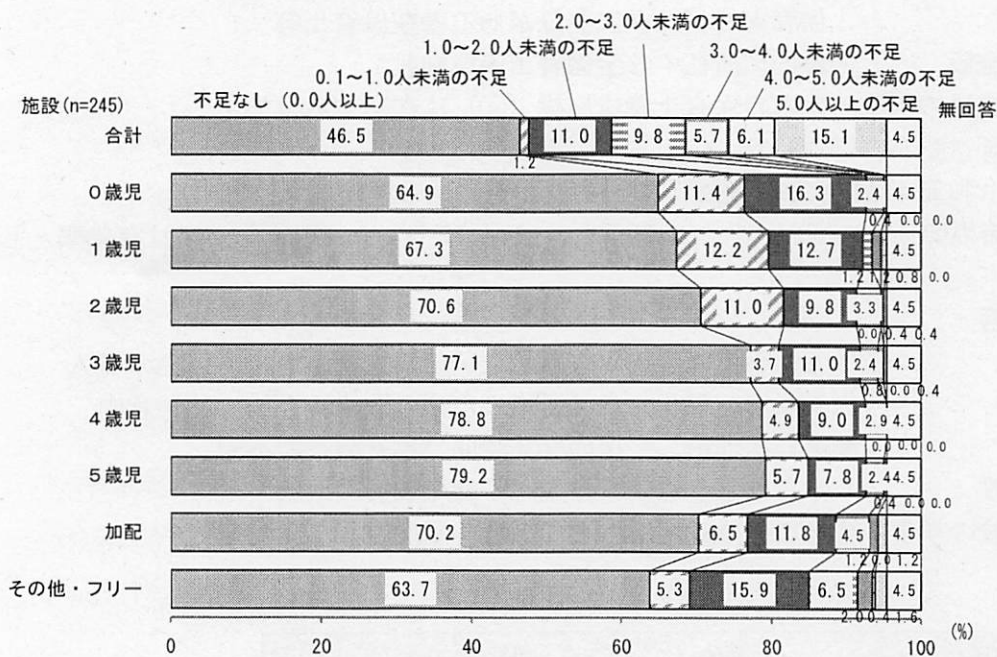
(1) 人員に関すること

- ・退職者の約半数は、勤務年数が3年未満となっています。
- ・理想の保育を行うために不足している保育士数は、園児の年齢が低いほど不足している割合が高い傾向にあり、加配やフリーの保育士についても不足している割合が高くなっています。

(1) - 1 退職者の勤務年数別比率（実人数ベース）



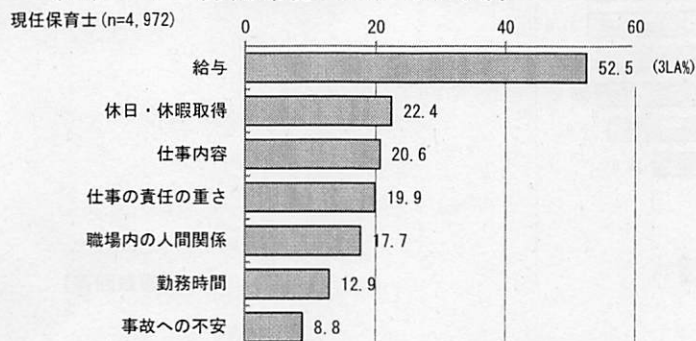
(1) - 2 理想の保育を行うために不足している保育士数



(2) 労働環境に関すること

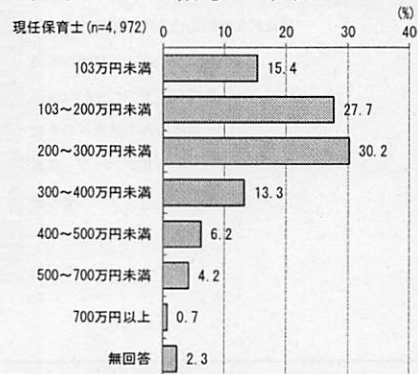
- ・労働環境についての不満は、「給与」が最も多く、次いで「休日・休暇取得」「仕事内容」「仕事の責任の重さ」が続いています。
- ・給与の妥当性については、「やや安いと思う」「安いと思う」で7割近くを占めています。
- ・給与が安いと思う理由は、「仕事の量が多い」が最も多く、次いで「責任が重い」「生計を維持するのに足りない」が続いています。

(2) - 1 労働環境についての不満

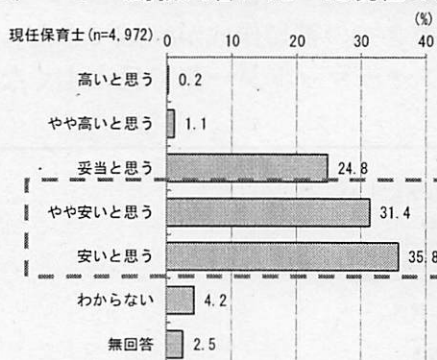


【3つ以内で複数回答】(上位7項目)

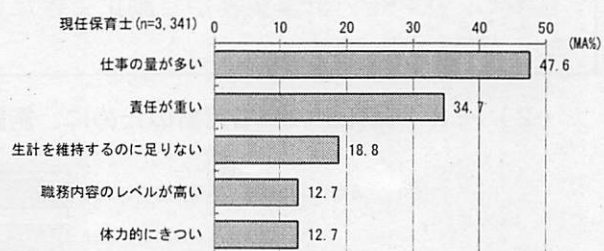
(2) - 2 給与 年収ベース (総支給額)



(2) - 3 勤務内容に比した現在の給与の妥当性



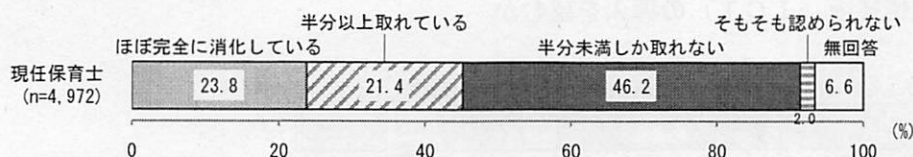
(2) - 4 給与が安いと思う理由



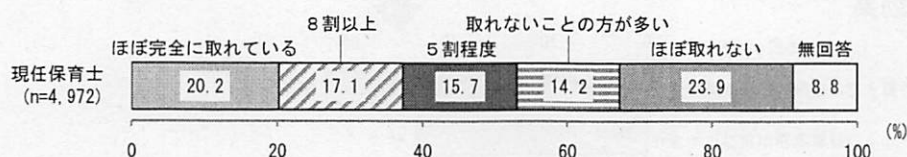
【複数回答】(上位5項目)

- ・有給休暇の取得状況は、「半分未満しか取れない」が半数近くを占め、最も多くなっています。
- ・昼休憩等の休憩時間の取得状況は、約4分の1の人が「ほぼ取れない」状態になっています。

(2) - 5 有給休暇の取得状況

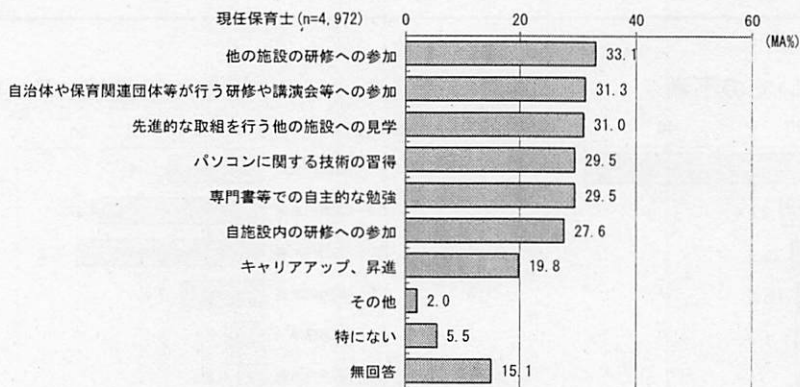


(2) - 6 昼休憩等の休憩時間の取得状況



- ・現任保育士が自己研鑽のために今後取り組みたいことは、「他の施設の研修への参加」、「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」、「先進的な取組を行う他の施設への見学」を行いたいと考える現任保育士がそれぞれ3割を超えています。

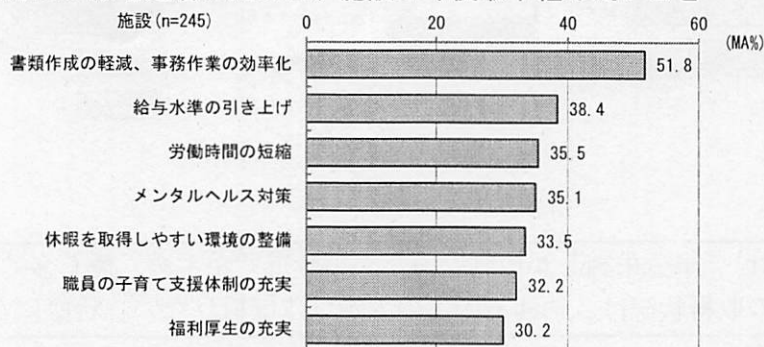
(2) - 7 自己研鑽のために、現任保育士が今後取り組みたいこと



【複数回答】

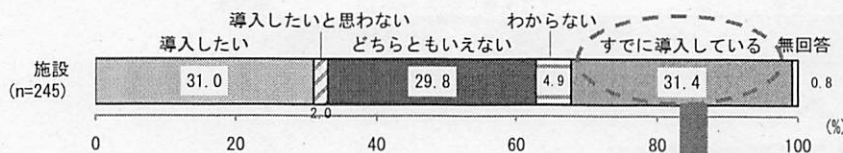
- ・半数以上の施設が、保育士の職場定着のために「書類作成の軽減、事務作業の効率化」に今後取り組みたいと考えています。
- ・全体の3割の施設がICTを「すでに導入」し、3割の施設が「導入したい」と考えています。
- ・ICTをすでに導入している施設での効果については、「手書きでの書類作成が削減できた」が最も多く、次いで「計算業務が自動化できた」「情報管理のフォーマットが一律で見やすくなった」が続いています。

(2) - 8 保育士の職場定着のために、施設が今後取り組みたいこと

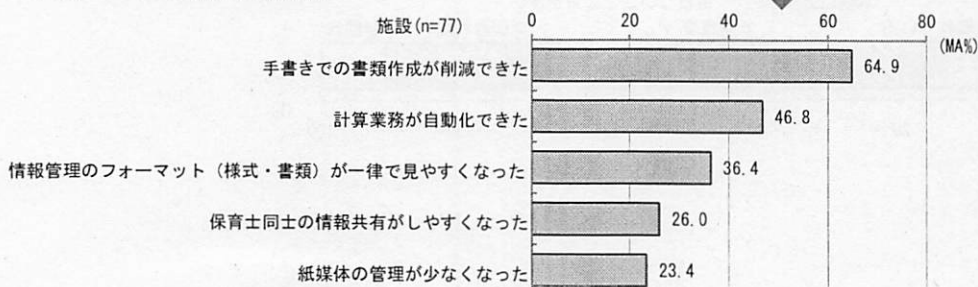


【複数回答】(上位7項目)

(2) - 9 情報通信技術 (ICT) の導入を望むか



(2) - 10 導入の効果

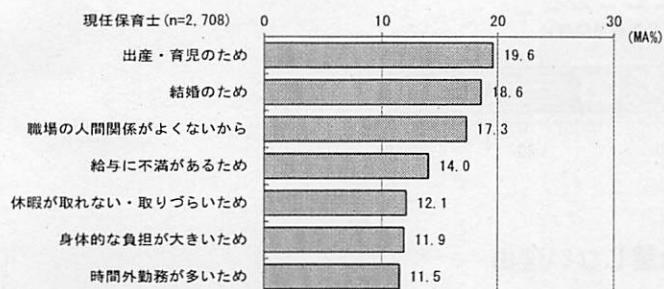


【複数回答】(上位5項目)

(3) 退職の理由について

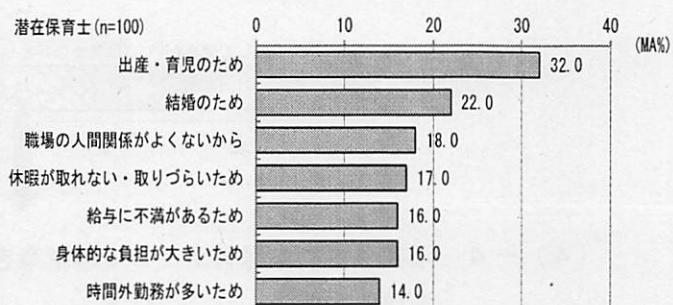
・以前、保育職場に勤めていた保育士が直近の勤務先を退職した理由は、現任保育士および潜在保育士ともに「出産・育児のため」が最も多く、次いで「結婚のため」「職場の人間関係がよくないから」が続いています。

(3) - 1 現任保育士の退職理由



【複数回答】(上位7項目)

(3) - 2 潜在保育士の退職理由



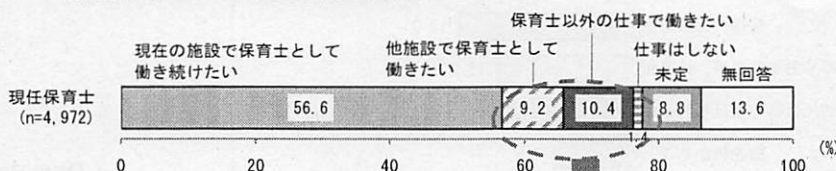
【複数回答】(上位7項目)

(4) 今後の就業意向について

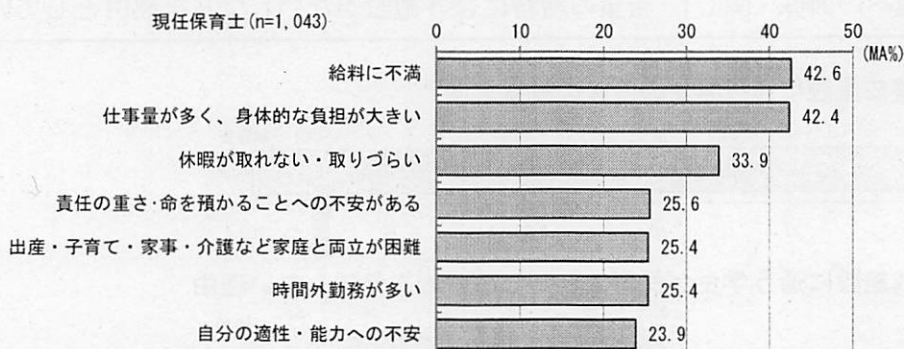
・現任保育士の就業意向は、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が最も多くなった一方、転職・退職を希望する人が約2割となっています。

・転職・退職したい理由は、「給与に不満」が最も多く、次いで「仕事量が多く、身体的な負担が大きい」「休暇が取れない・取りづらい」が続き、職場環境に関する理由も多くなっています。

(4) - 1 現任保育士の今後の就業意向



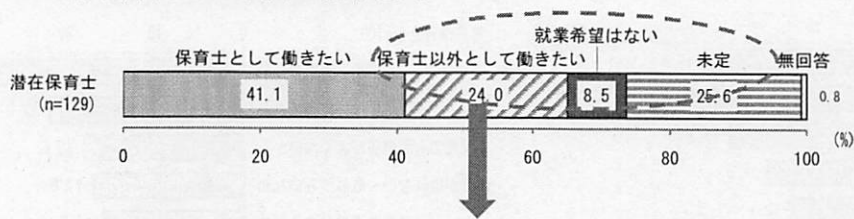
(4) - 2 現任保育士が転職・退職したい理由



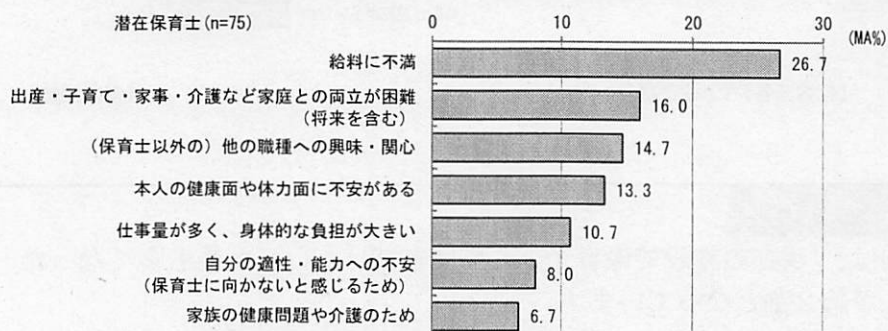
【複数回答】(上位7項目)

- ・潜在保育士では、「保育士として働きたい人」が4割程度にとどまっています。
- ・保育士としての就業を希望しない理由は、「給料に不満」が最も多く、次いで「出産・子育て・家事・介護など家庭との両立が困難」が続いています。
- ・再就職に際して最も不安に思うことは、「家事・子育てと仕事の両立」が最も多く、次いで「職場の人間関係」「給与や労働条件等、待遇面」が続いています。

(4) - 3 潜在保育士の今後の就業意向

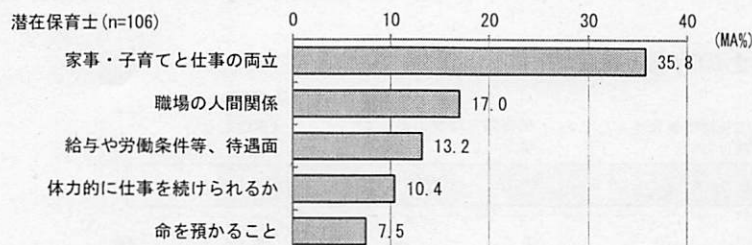


(4) - 4 潜在保育士が保育士としての就業を希望しない理由



【複数回答】(上位7項目)

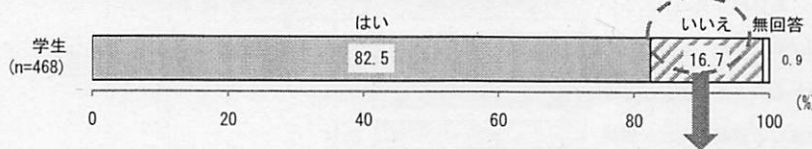
(4) - 5 再就職に際して最も不安に思うこと



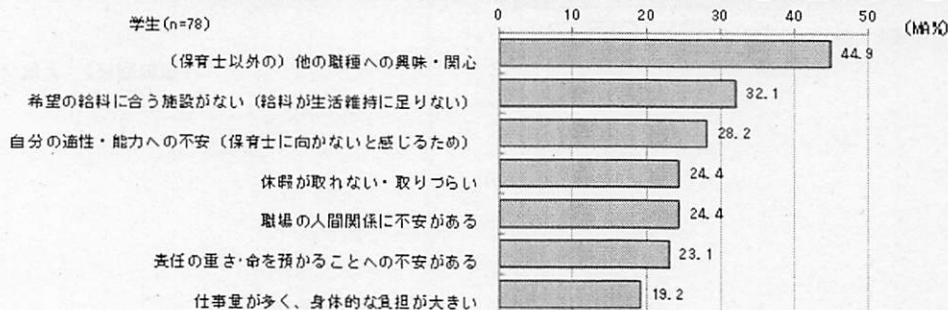
【複数回答】(上位5項目)

- ・保育士養成施設に通う学生では、8割以上が保育士としての就職を希望していますが、希望しない学生は、「他の職種への興味・関心」「希望の給料に合う施設がない」などを理由としています。

(4) - 6 保育士養成施設に通う学生の今後の就業意向



(4) - 7 保育養成施設に通う学生が保育士としての就職を希望しない理由

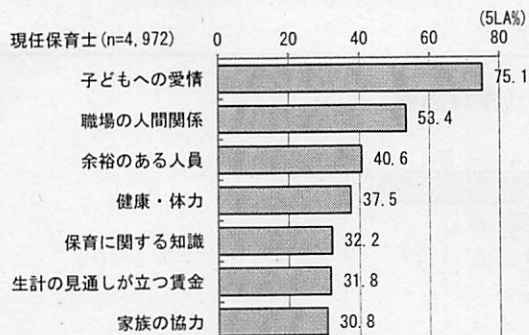


【複数回答】(上位7項目)

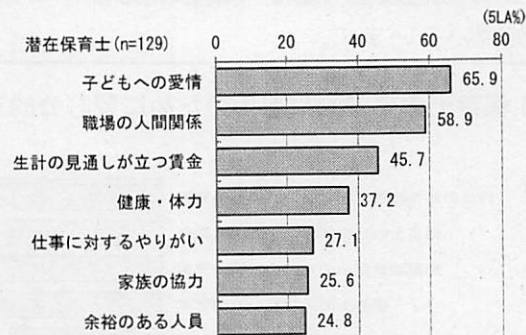
(5) 保育士として働くために重要なことについて

・現任保育士、潜在保育士および保育士養成施設に通う学生のいずれもが、保育士として働くためには「子どもへの愛情」が必要であり、「職場の人間関係」が重要だと考えています。

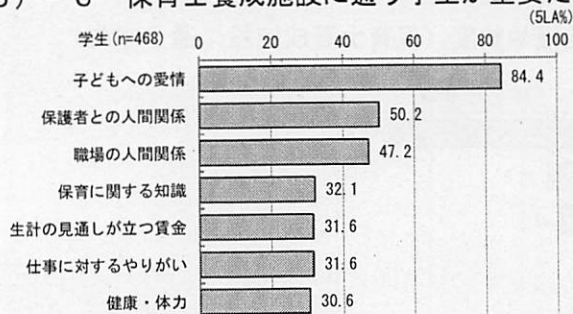
(5) - 1 現任保育士が重要だと思うこと



(5) - 2 潜在保育士が重要だと思うこと



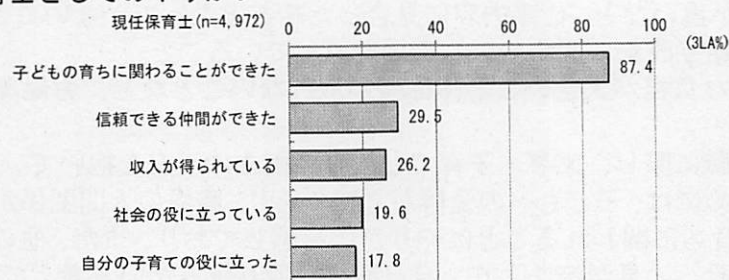
(5) - 3 保育士養成施設に通う学生が重要だと思うこと



【5つ以内で複数回答】(上位7項目)

・保育士としてのやりがいについては、「子どもの育ちに関わることができた」が9割近くの現任保育士が回答し、最も多くなっています。

(5) - 4 保育士としてのやりがい

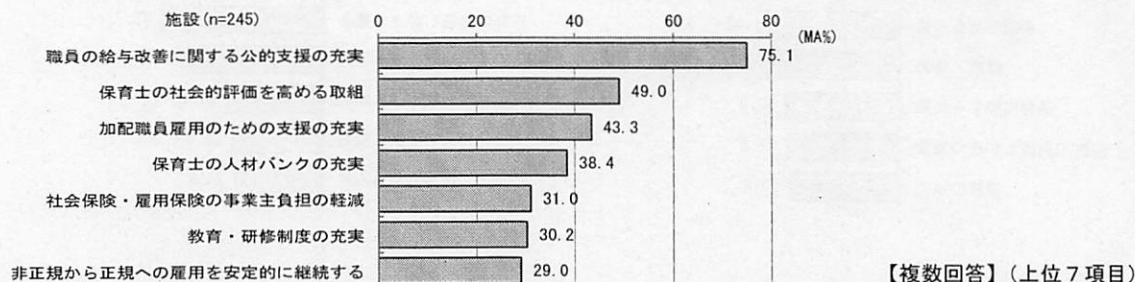


【3つ以内で複数回答】(上位5項目)

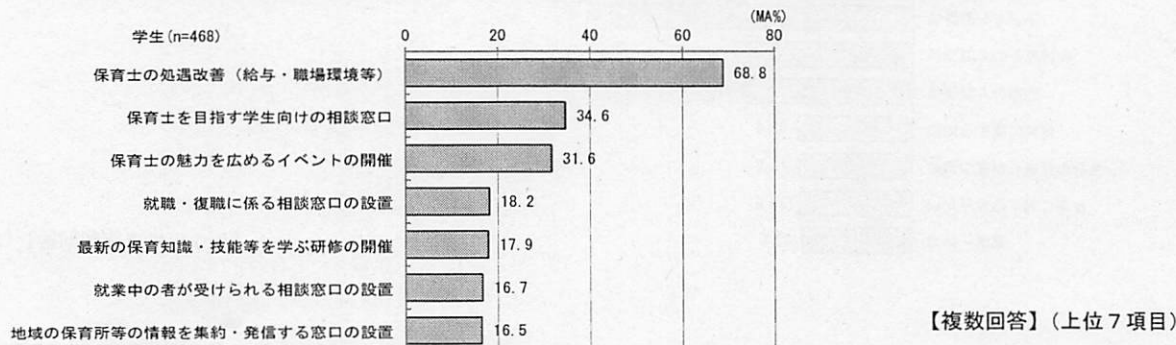
(6) 望まれる支援や制度について

- ・保育施設が保育士の安定的な雇用のために望む公的支援については、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が最も多く、次いで「保育士の社会的評価を高める取組」「加配職員雇用のための支援の充実」が続いています。
- ・保育士養成施設に通う学生が考えている保育士を目指す学生が増えるような支援や制度については、「保育士の処遇改善（給与・職場環境等）」が最も多く、次いで「保育士を目指す学生向けの相談窓口」が続いています。

(6) - 1 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援（保育施設）



(6) - 2 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度（保育士養成施設に通う学生）



4. まとめ

(1) 調査結果から見てきたこと

- 勤続年数が3年未満の退職者が多いこと。
- 仕事量が多く、責任が重いなど、仕事内容に見合った給与となっていないことから、給与に関する不満が多くあり、給与改善に関する公的支援を望んでいること。
- 仕事量が多く身体的な負担が大きいことや休暇が取れないことなど、労働環境の改善が望まれていること。
- 潜在保育士は、再就職に際し、家事・子育てと仕事の両立に不安を抱いていること。
- 保育士として働くためには、子どもへの愛情が必要であり、職場の人間関係が重要であること。
- 保育士は、子どもの育ちに関われることにやりがいを感じており、また、他の施設への研修や先進的な取組を行う施設への見学等により、自己研鑽に取り組みたいと考えていること。

(2) 保育人材の確保に向けた今後の取組の方向性

保育士・保育所支援センターの運営や修学資金等貸付事業などこれまでの取組に加え、今年度から実施している若手保育士への巡回支援や保育士有資格者バンク登録制度の有効活用、滋賀の保育の魅力発信などの取組を継続して実施していきます。

さらに、今回の調査結果から見てきた保育現場の実態を踏まえ、滋賀県待機児童対策協議会の保育人材確保部会を活用し、市町や保育関係者のご意見をお聴きしながら、保育士等の処遇改善が確実に実施され、人材育成や労働環境の改善により、働きやすい職場・居心地のよい環境づくりを促進するなど、あらゆる角度から保育人材の確保に向けた取組をより一層強化し実施していきます。

滋賀県保育士実態調査報告書

概要版

令和2年2月

滋賀県

I 調査概要

(1) 調査目的

保育士不足の実態や保育現場の職場環境の実態、保育士として働くことへの不安や職場に望むことなど、幅広く実態を把握し、滋賀県の今後の効果的な保育人材確保の取組につなげるための基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

① 調査地域：滋賀県内全域

② 調査対象

調査の種類	調査の対象
〔1〕 保育施設調査	県内に所在する保育事業者415施設
〔2〕 現任保育士調査	県内保育施設に勤務する現任保育士8,682人
〔3〕 潜在保育士調査	無職または他の仕事に就いている保育士登録者464人
〔4〕 保育士養成施設調査	県内に所在する保育士養成施設5施設
〔5〕 保育士養成施設学生調査	県内の保育士養成施設に通う学生734人

③ 調査方法：郵送配布、郵送回収

④ 調査期間：令和元年11月8日（金）から令和元年11月20日（水）

(3) 回収結果

区分	配付数	有効回答数	有効回答率
〔1〕 保育施設調査	415 件	245 件	59.0%
〔2〕 現任保育士調査	8,682 件	4,972 件	57.3%
〔3〕 潜在保育士調査	464 件	208 件	44.8%
〔4〕 保育士養成施設調査	5 件	5 件	100.0%
〔5〕 保育士養成施設学生調査	734 件	468 件	63.8%

(4) 調査結果の見方

- ①回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ②図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

Ⅱ 調査結果の概要①

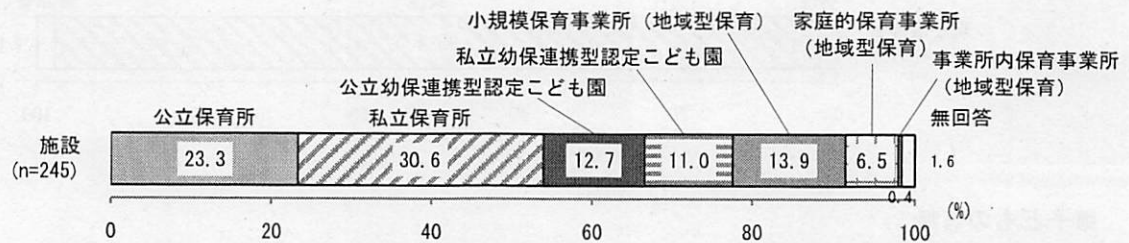
〔1〕 保育施設調査 〔2〕 現任保育士調査 〔3〕 潜在保育士調査

1 回答者の属性

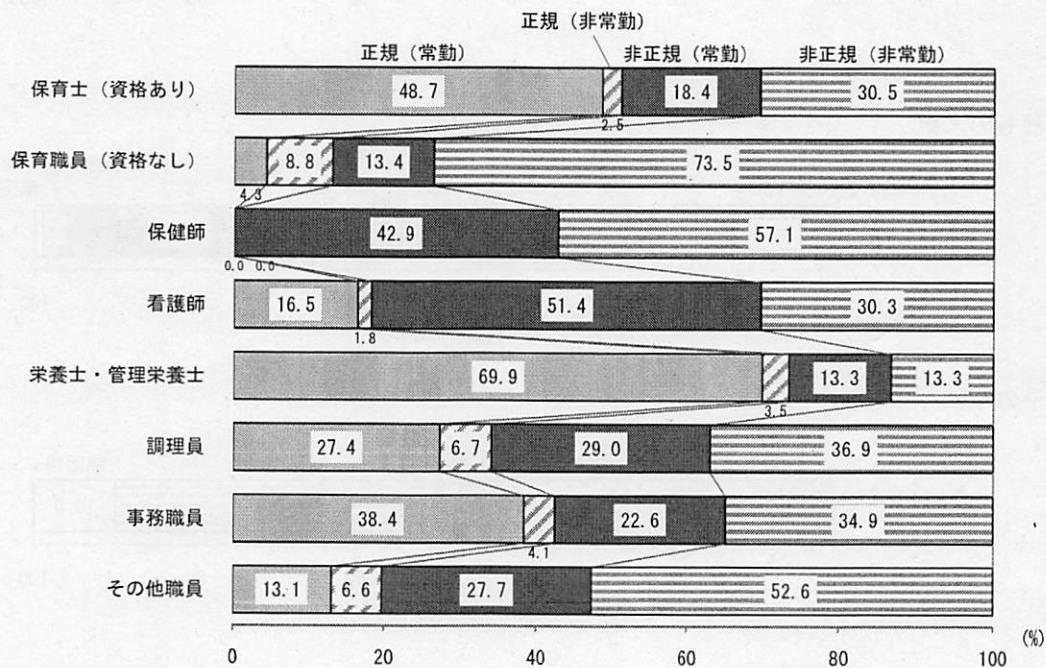
◆ 保育施設調査

- 施設の種類は、「私立保育所」が最も多く、次いで「公立保育所」が多い
- 職種別職員数は、『保育士（資格あり）』と『栄養士・管理栄養士』は「正規」の割合が多いが、それ以外の職種では「非正規」の割合が多い

■ 施設の種類



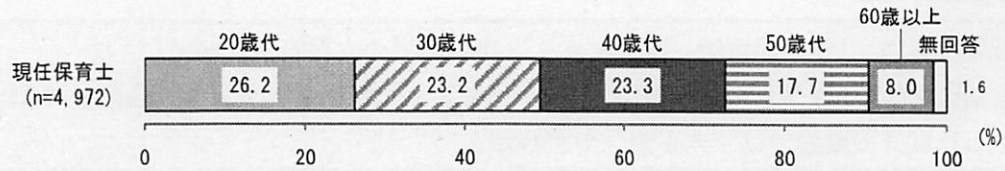
■ 職種別職員（実人数）



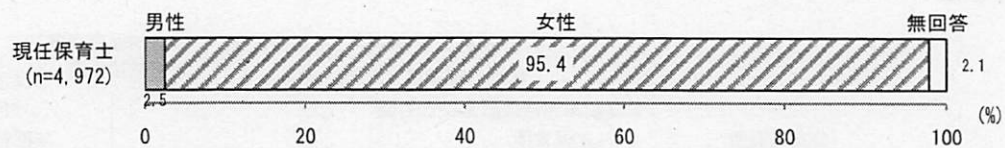
◆現任保育士調査

- 年齢は20歳代が最も多く、次いで40歳代、30歳代が多い
- 性別は、女性が95%を占める
- 子どもがいる人は約6割で、末子の年齢は「16歳以上」が最も多く、次いで「0～6歳」が多い

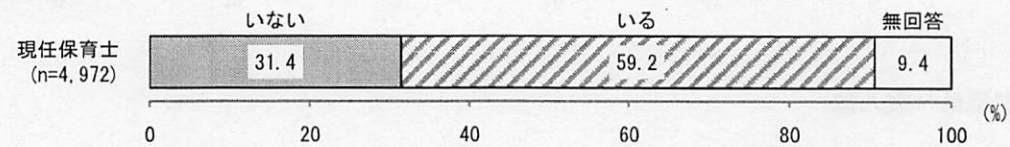
■年齢



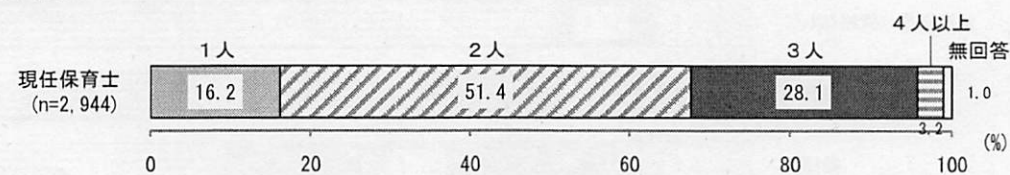
■性別



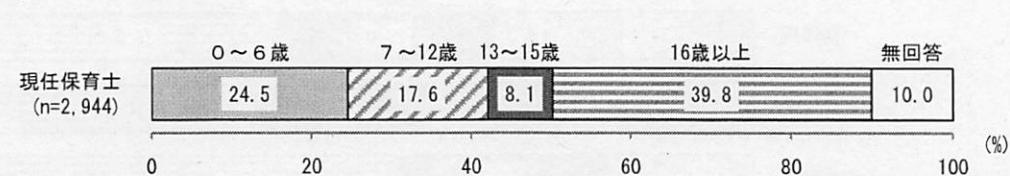
■子どもの有無



■子どもの人数



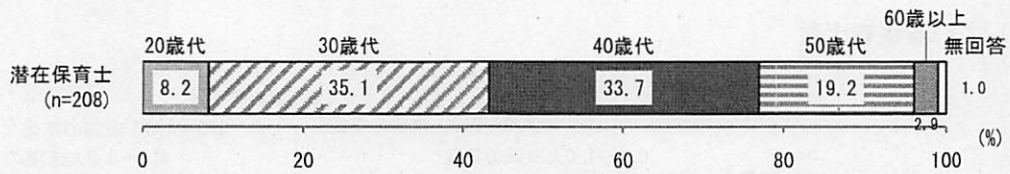
■末子の年齢



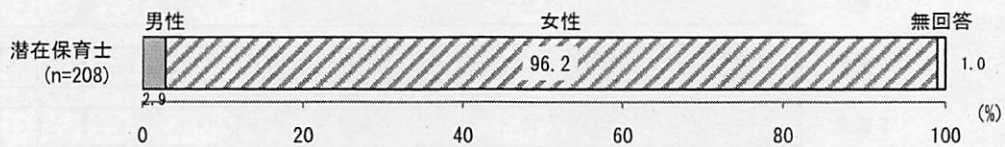
◆潜在保育士調査

- 年齢は30歳代が最も多く、次いで40歳代が多い
- 性別は、女性が約96%を占める
- 子どもがいる人は約8割で、末子の年齢は「0～6歳」が最も多い

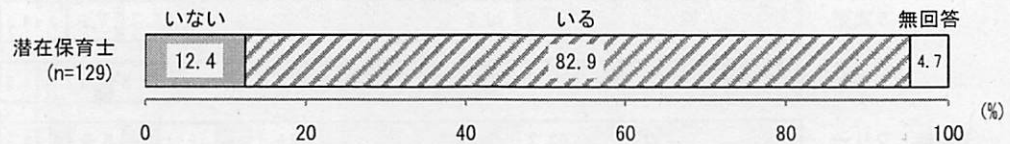
■年齢



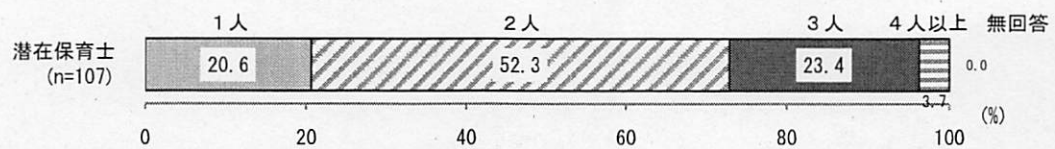
■性別



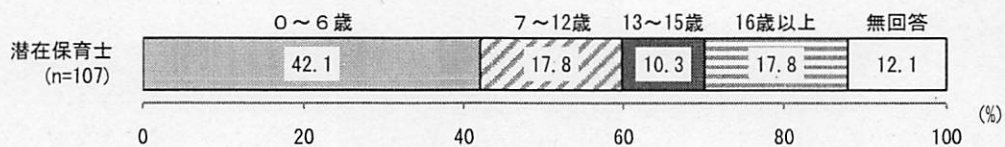
■子どもの有無



■子どもの人数



■末子の年齢

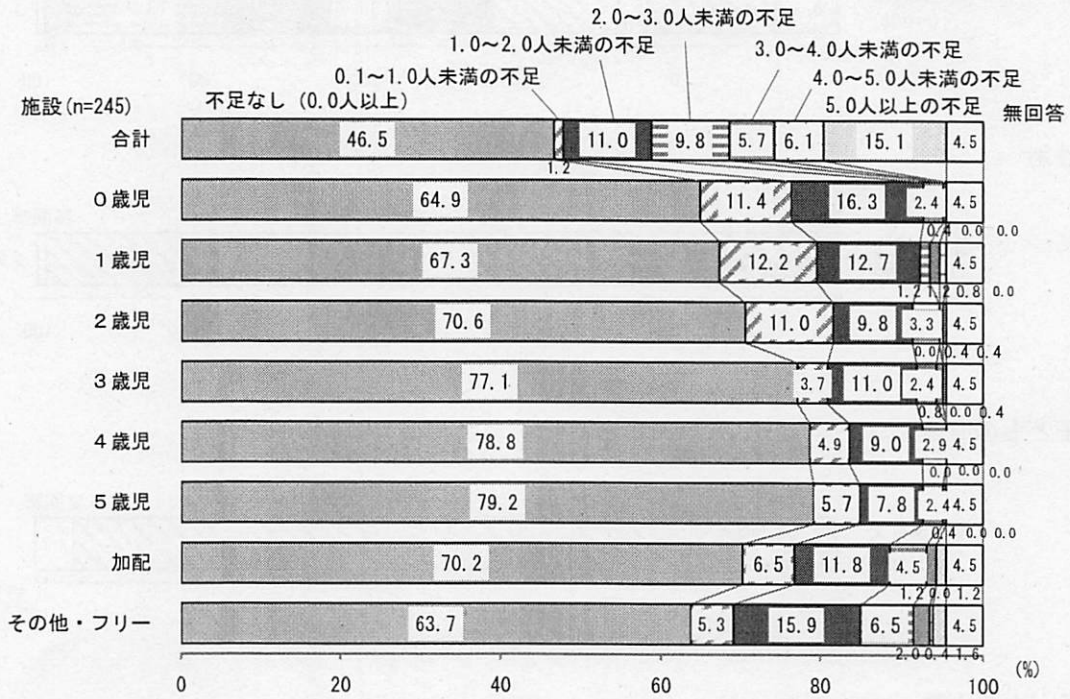


2 人員に関すること

◆理想の保育を行うために不足している保育士の数（保育施設）

●園児の年齢が低いほど不足している割合が高い傾向にある

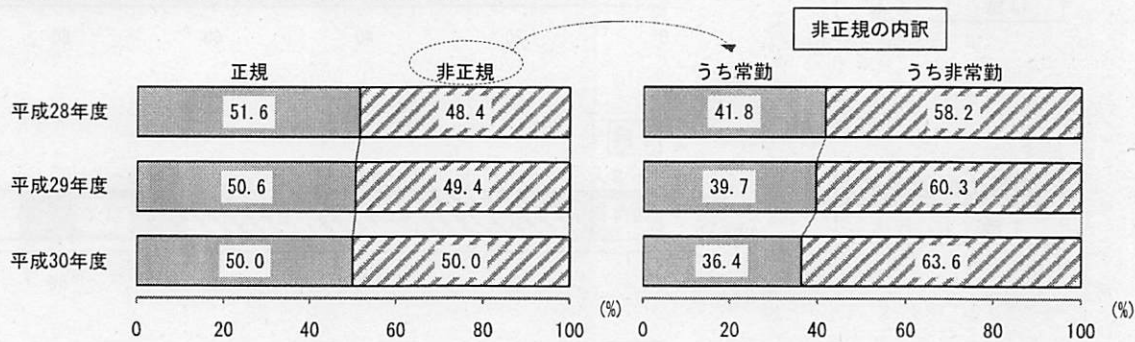
■不足している保育士数



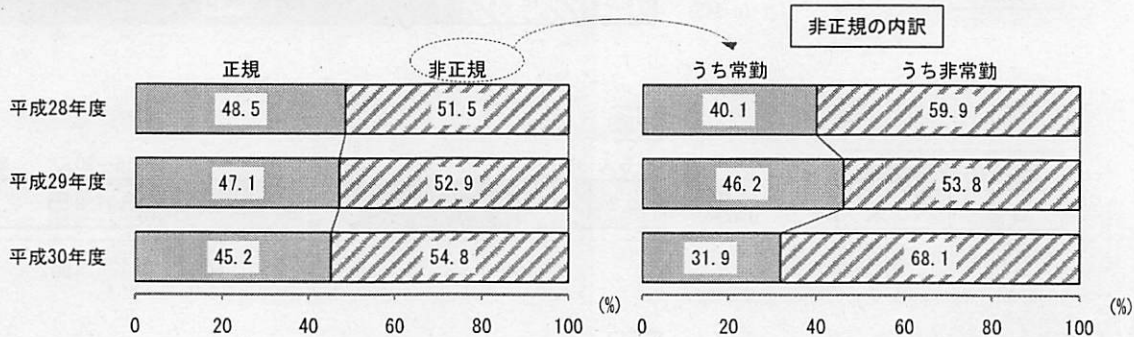
◆過去3年間の保育士数の状況について（保育施設）

- 現在施設で働く保育士の人数は、非正規（非常勤）の割合が少しずつ増えている
- 過去3年間の退職者をみると、非正規（非常勤）の割合が年々増えている
- 退職者の約半数は、勤務年数が3年未満である

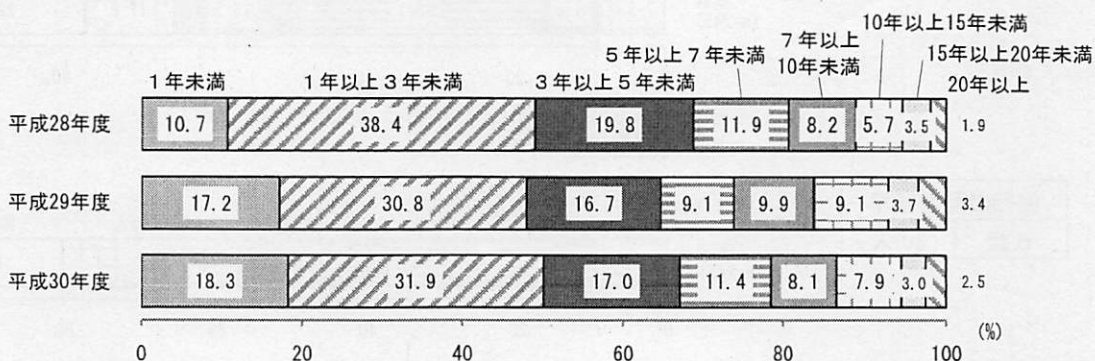
■過去3年間の雇用形態別の保育士の内訳（実人数ベース）



■過去3年間の退職者の内訳（実人数ベース）



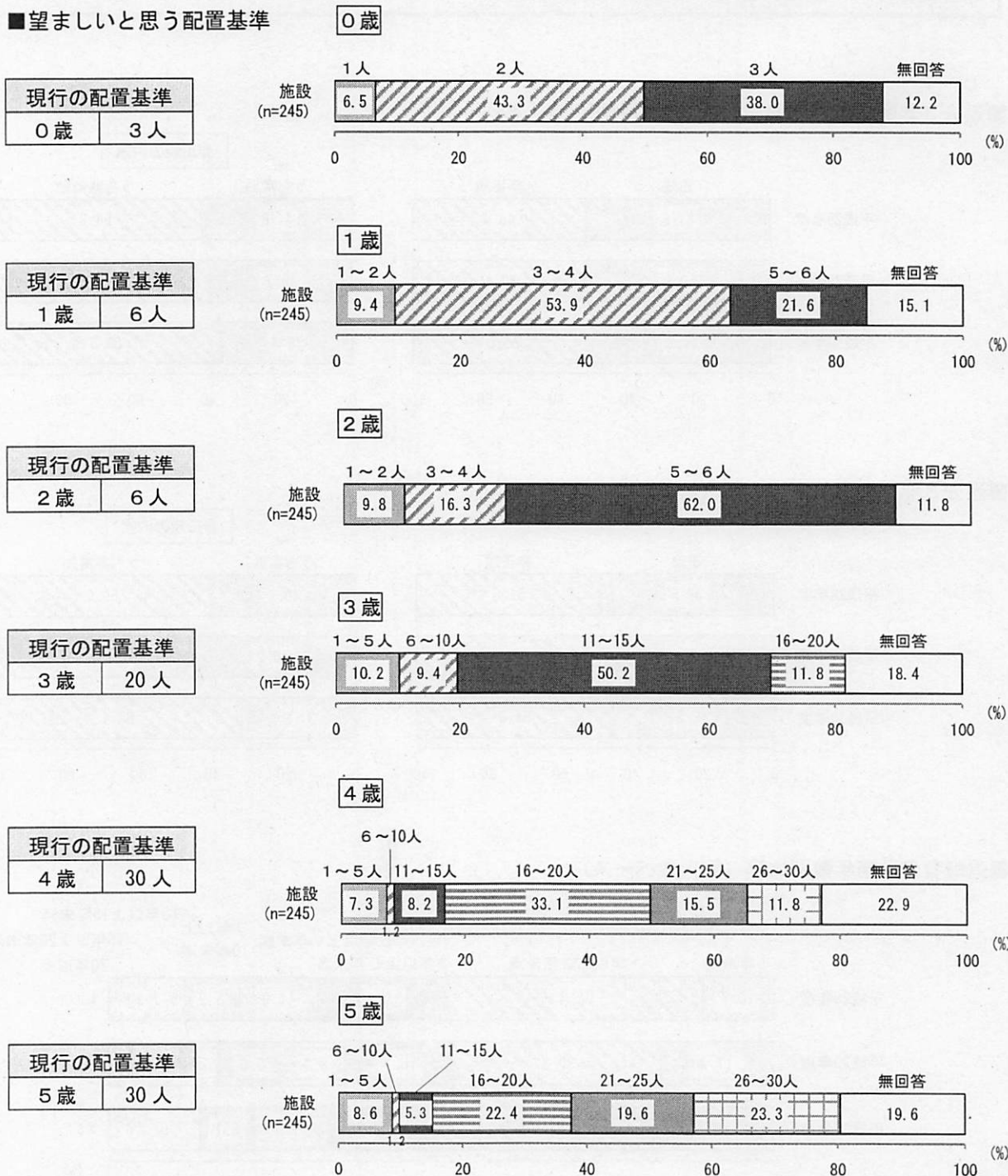
■退職者の勤務年数別比率（実人数ベース）



◆望ましい法令上の配置基準について（保育施設）

- 1人の保育士が担当する子どもの人数は、現行の配置基準より少ない人数を希望する意見が多い

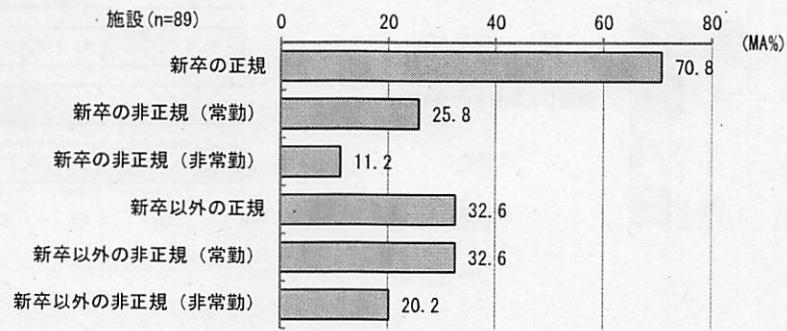
■望ましいと思う配置基準



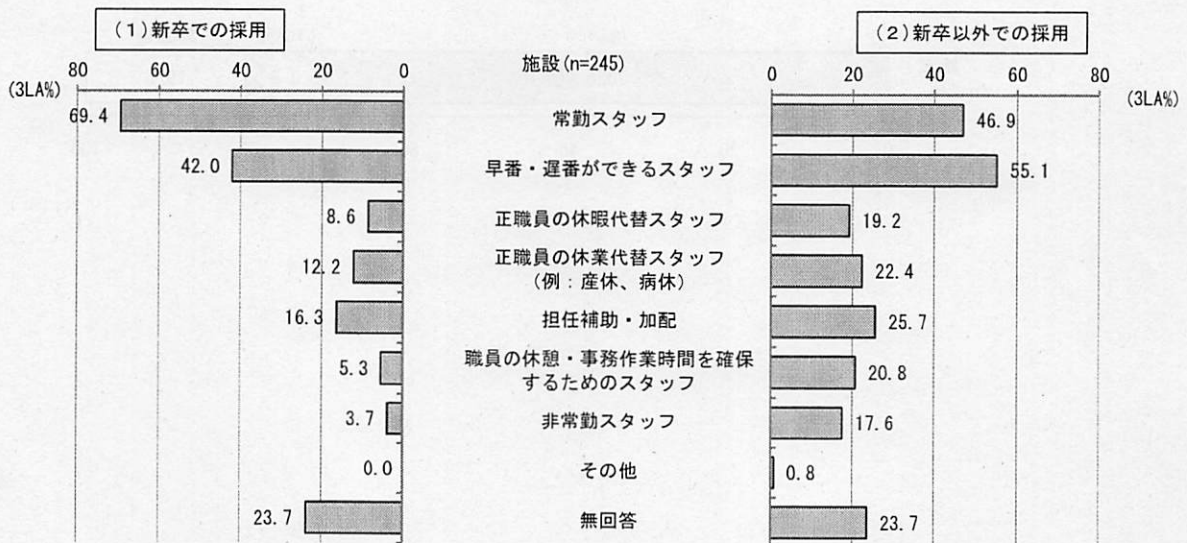
◆採用に関すること（保育施設）

- 募集に対し応募が少なかった雇用形態については、「新卒の正規」が最も多い
- 施設が求めるスタッフの雇用形態について、新卒では「常勤スタッフ」が、新卒以外では「早番・遅番ができるスタッフ」が最も多い
- 利用している求人手段は、「ハローワーク」が最も多く、次いで「知人・友人の紹介」が多い
- 効果が高いと評価する求人手段は、『人材派遣・紹介会社に依頼』、『友人・知人の紹介』
- 効果が低いと評価する求人手段は、『県の人材バンクからの情報提供』、『自施設・自社の掲示板またはHP』
- 保育士の採用に困難を感じている施設は7割となっている

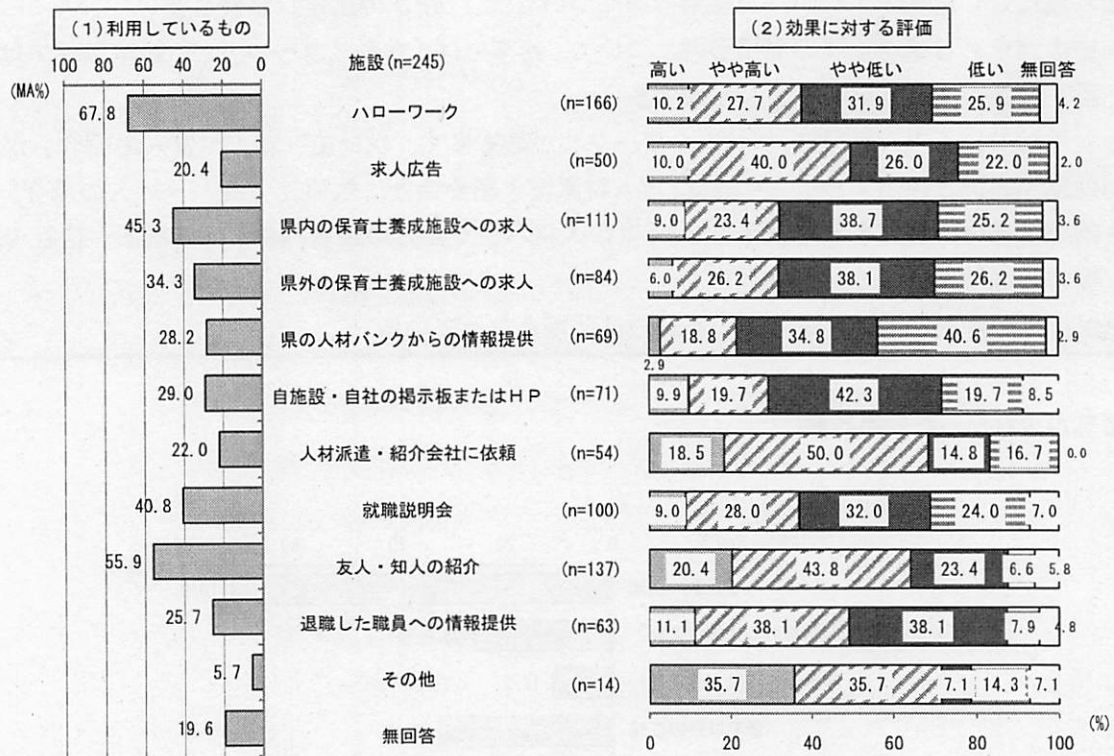
■応募が少なかった雇用形態



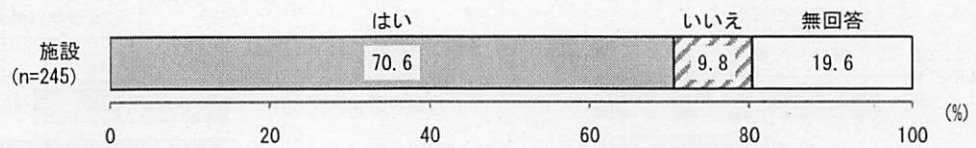
■施設が求めるスタッフの雇用形態



■利用している求人手段



■保育士の採用に困難を感じているか

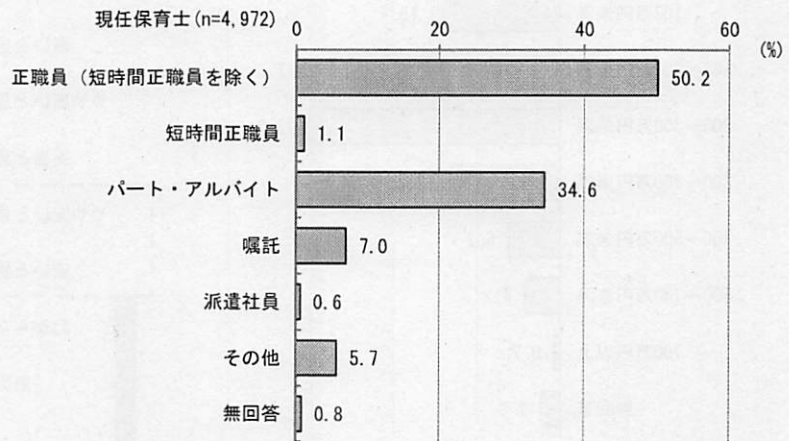


3 保育士の労働環境等について

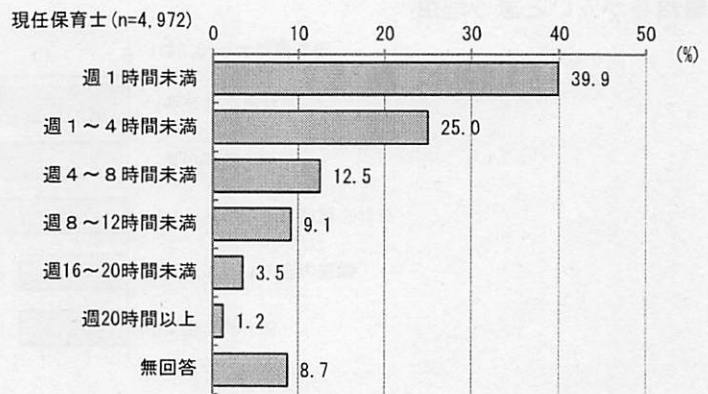
◆労働環境について（現任保育士）

- 現在の雇用形態は、「正職員」が最も多く、次いで「パート・アルバイト」が多い
- 1週あたりの残業時間は、「週1時間未満」が最も多く、次いで「週1～4時間未満」が多い
- 有給休暇の取得状況は、「半分未満しか取れない」が最も多い
- 昼休憩等の休憩時間の取得状況は、約4分の1の人が「ほぼ取れない」状態である

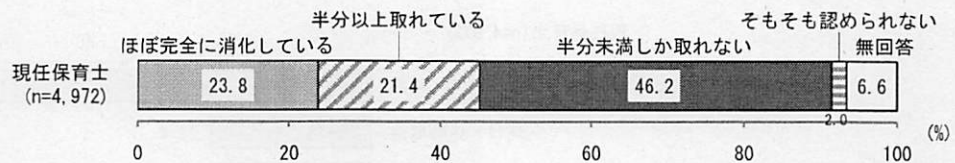
■現在の雇用形態



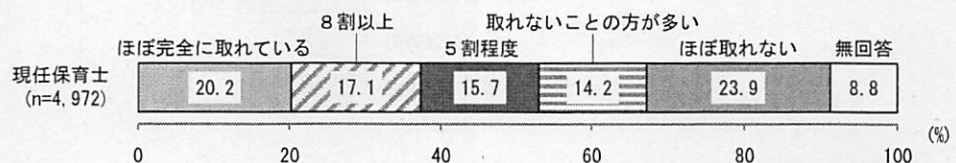
■1週あたりの残業時間



■有給休暇の取得状況



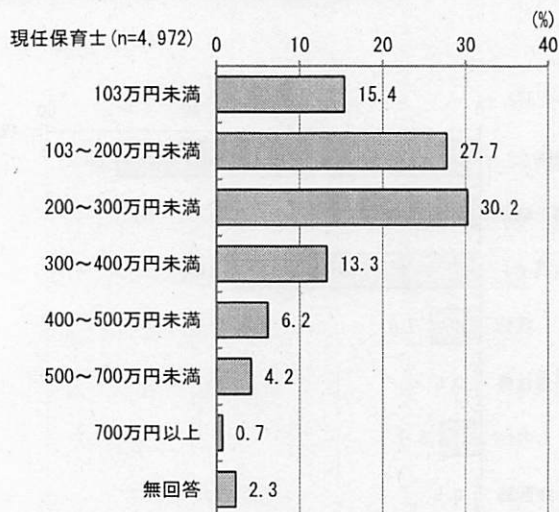
■昼休憩等の休憩時間の取得状況



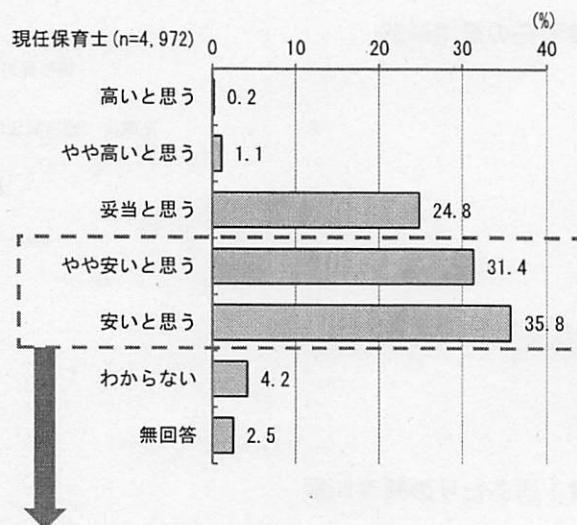
◆給与に関すること（現任保育士）

- 年収は「200～300万円未満」の人が最も多い
- 給与の妥当性については、「やや安いと思う」「安いと思う」で7割近くを占めている
- 給与が安いと思う理由は、「仕事の量が多い」が最も多い
- 労働環境の不满は、「給与」が最も多く、「休日・休暇取得」「仕事内容」「仕事の責任の重さ」が続く

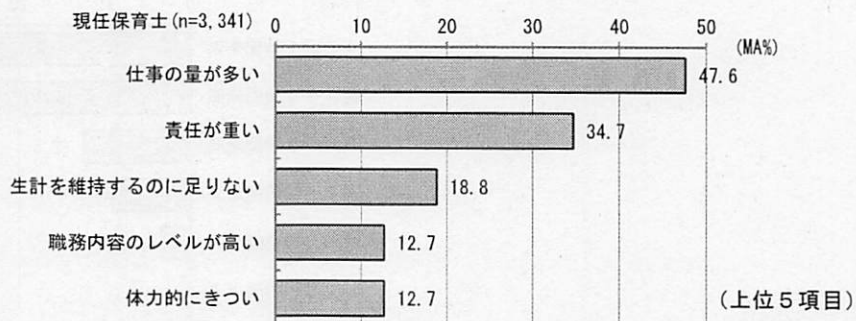
■給与 年収ベース（総支給額）



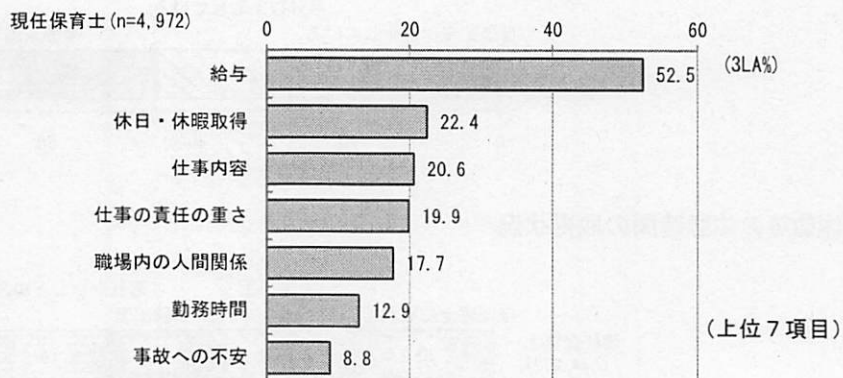
■勤務内容に比べた現在の給与の妥当性



■給与が安いと思う理由



■労働環境についての不満



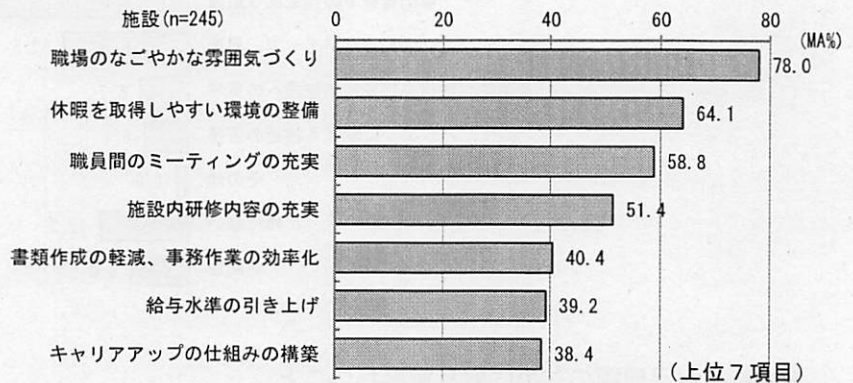
4

各園や各個人が行っている取組等

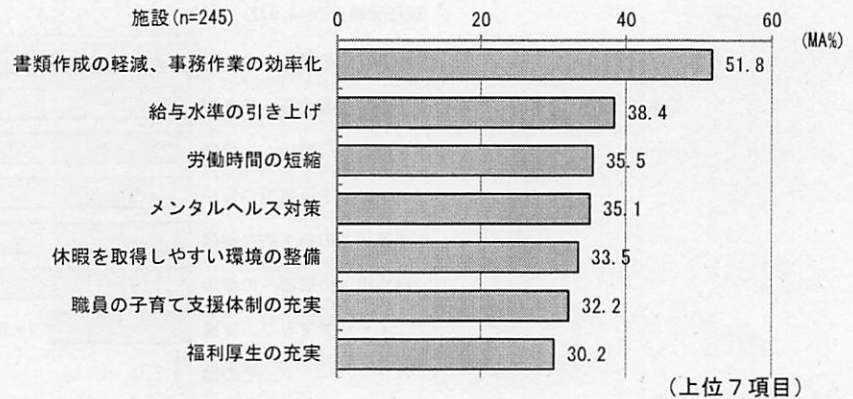
◆保育士定着のための保育施設の取組、求める支援等（保育施設）

- 保育施設が現在取り組んでいることは、「職場のなごやかな雰囲気づくり」が最も多く、「休暇を取得しやすい環境の整備」「職員間のミーティングの充実」が続く
- 今後取り組みたいことは、「書類作成の軽減、事務作業の効率化」が最も多く、「給与水準の引き上げ」「労働時間の短縮」が続く
- 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援については、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が最も多く、「保育士の社会的評価を高める取組」「加配職員雇用のための支援の充実」が続く

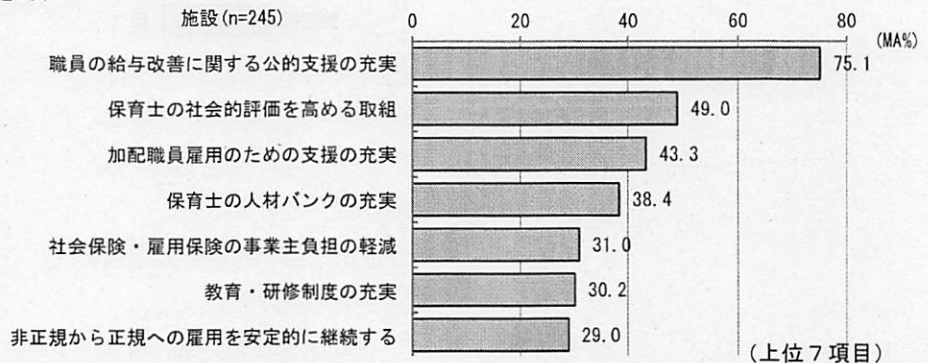
■保育士の職場定着のために 取り組んでいること



■保育士の職場定着のために 今後取り組みたいこと



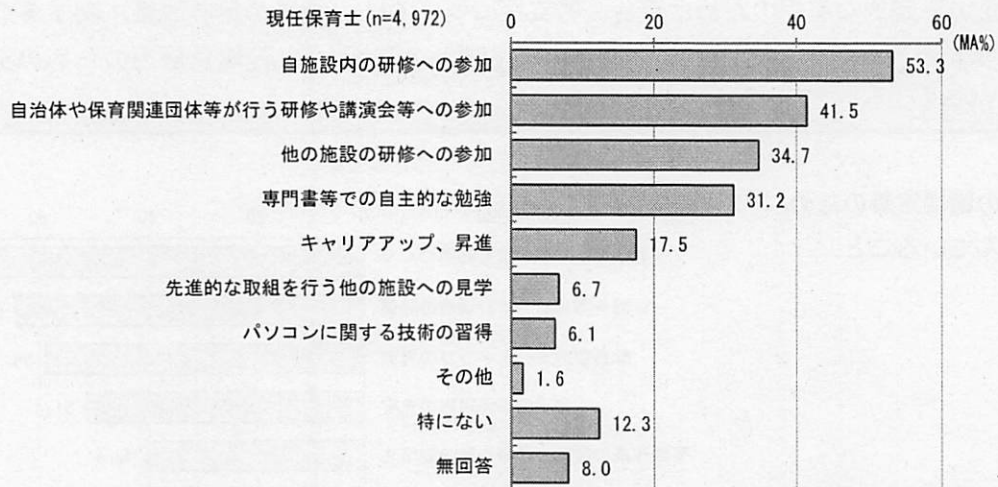
■保育士の安定的な雇用のために 望む公的支援



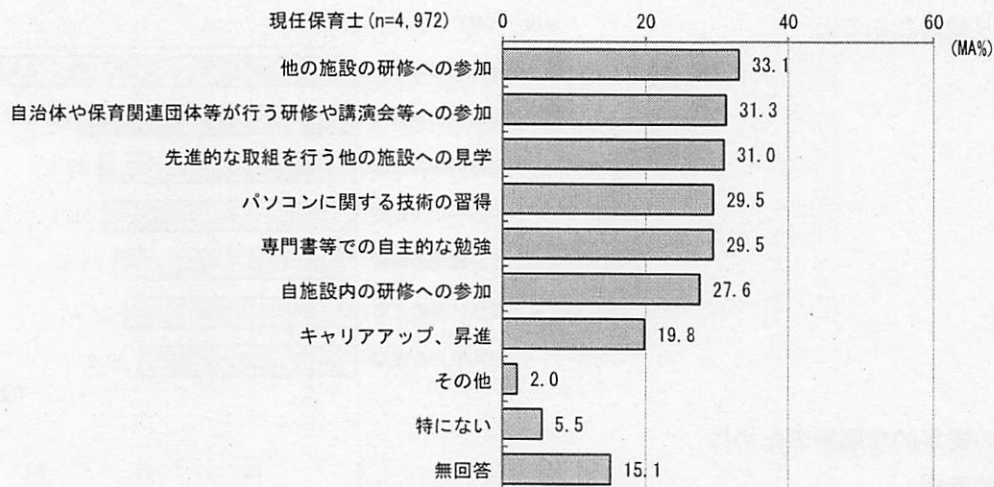
◆自己研鑽の取組について（現任保育士）

- 現在自己研鑽のために取り組んでいることは、「自施設内の研修への参加」が最も多く、「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」が続く
- 今後取り組みたいことは、「他の施設の研修への参加」が最も多く、次いで「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」が続く

■現在、自己研鑽のために取り組んでいること



■今後、自己研鑽のために取り組みたいこと



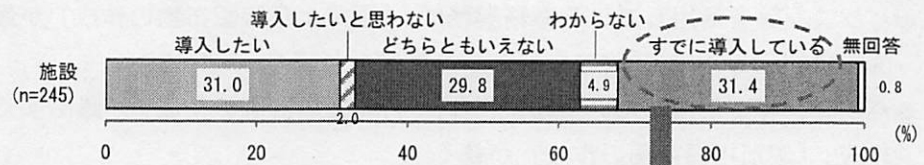
5

情報通信技術（ICT）の活用について

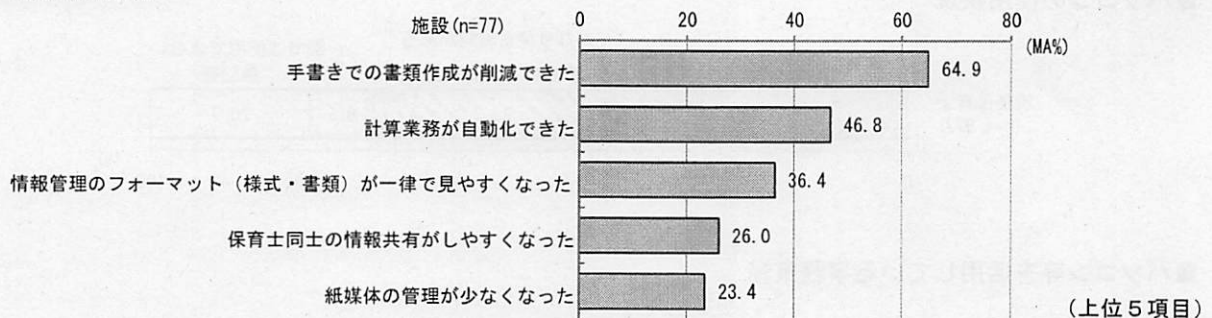
◆保育施設の情報通信技術（ICT）の活用状況（保育施設）

- 情報通信技術（ICT）の導入を望むかについては、「導入したい」と「すでに導入している」がそれぞれ3割となっている
- すでに導入している施設での導入の効果については、「手書きでの書類作成が削減できた」が最も多く、「計算業務が自動化できた」が続く
- パソコン等を活用している事務業務は、「園だより等配布物の作成」が最も多く、次いで「保護者への一斉配信メール」「教育・保育課程の編成」が続く
- 今後パソコン等を活用したい事務業務は、「児童表の作成」が多く、「年間指導計画の作成」「月の指導計画の作成」が続く

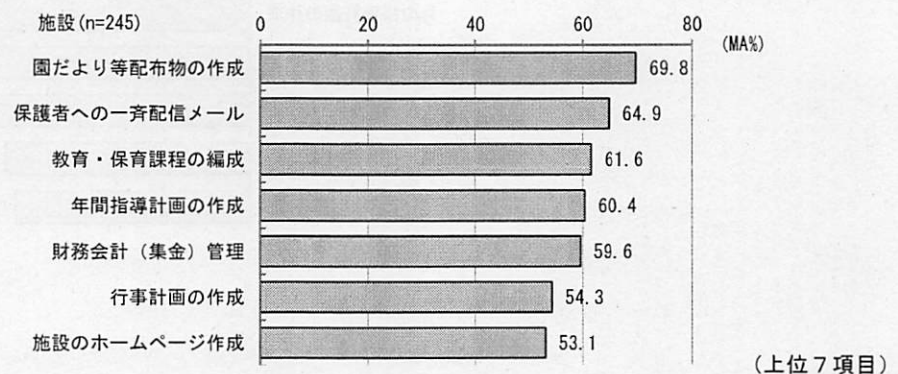
■情報通信技術（ICT）の導入を望むか



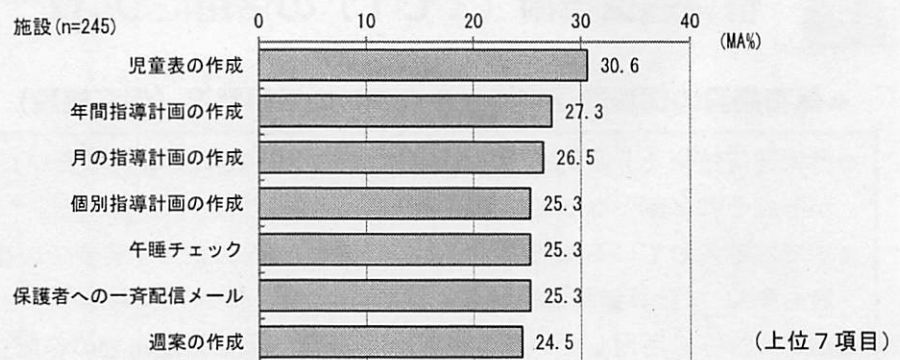
■導入の効果



■パソコン等を活用している事務業務



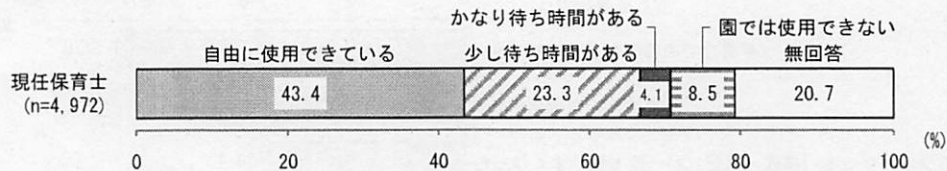
■パソコン等を活用したい事務業務



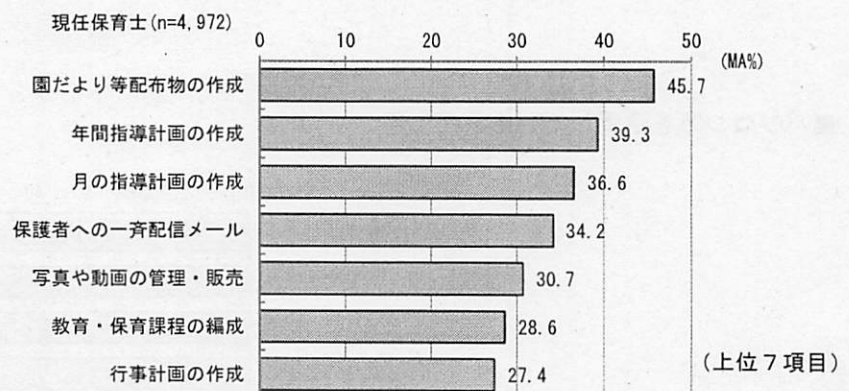
◆パソコン等の活用状況 (現任保育士)

- 勤務先でのパソコンの使用状況は、「自由に使用できている」が最も多い一方、4分の1ほどの人は『待ち時間がある』状態である。
- パソコン等を活用している事務業務は、「園だより等配布物の作成」が最も多く、次いで「年間指導計画の作成」「月の指導計画の作成」が続く
- パソコン等を活用したい事務業務は、「月の指導計画の作成」が最も多く、次いで「児童表の作成」「個別指導計画の作成」が続く

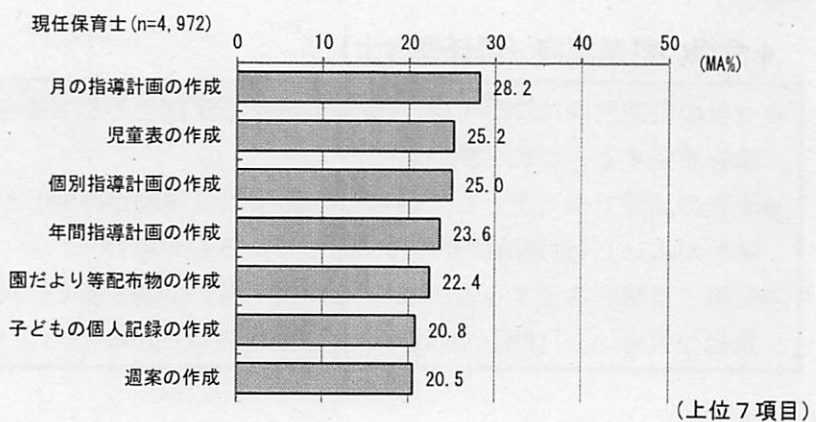
■パソコンの使用状況



■パソコン等を活用している事務業務



■パソコン等を活用したい事務業務



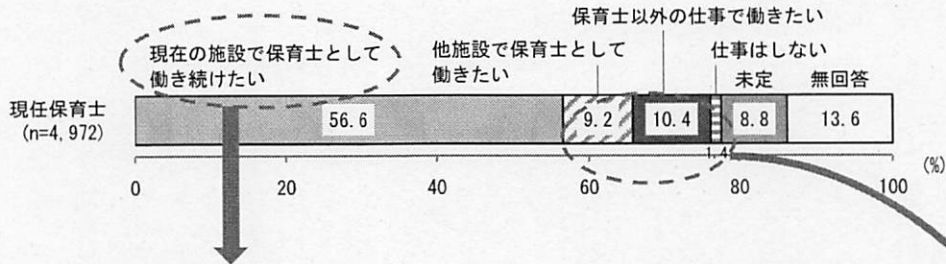
6

今後の就業意向、転職、再就職について

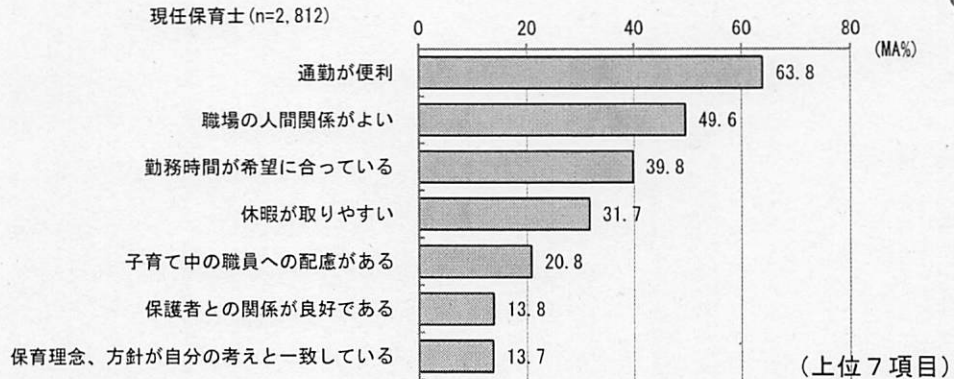
◆今後の就業意向（現任保育士）

- 今後の就業意向については、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が最も多い。一方転職を希望する人が約2割いる
- 現在の施設で保育士として働きたい理由は、「通勤が便利」が最も多く、次いで「職場の人間関係がよい」「勤務時間が希望に合っている」が多い
- 転職・退職を希望する理由は、「給料に不満」が最も多く、次いで「仕事量が多く、身体的な負担が大きい」「休暇が取れない・取りづらい」が続く

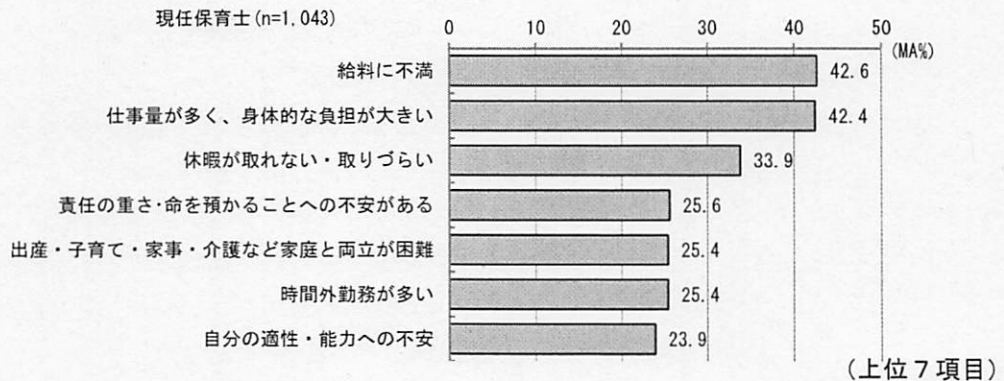
■今後の就業意向



■現在の施設で働きたい理由



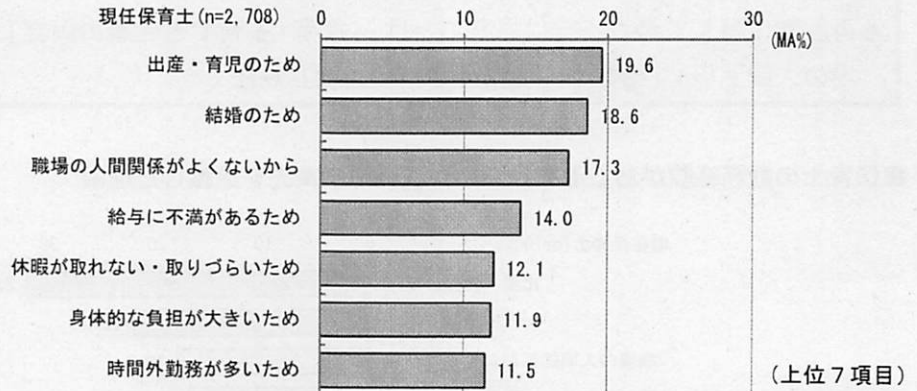
■現在の施設で働きたくない理由



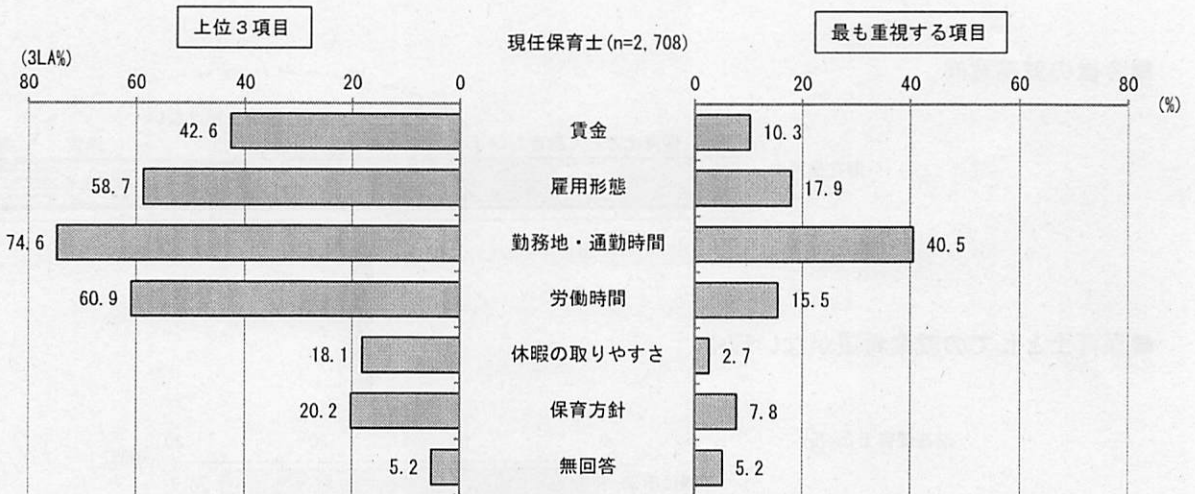
◆保育に関する仕事を退職した経験がある人について（現任保育士）

- 直近の勤務先を退職した理由は、「出産・育児のため」が最も多く、次いで「結婚のため」「職場の人間関係がよくないから」が続く
- 現在の職場を探すのに重視した条件は、上位3項目で見ると「勤務地・通勤時間」が最も多く、次いで「労働時間」「雇用形態」が続く。最も重視する項目では「勤務地・通勤時間」が最も多い

■直近の勤務先を退職した理由



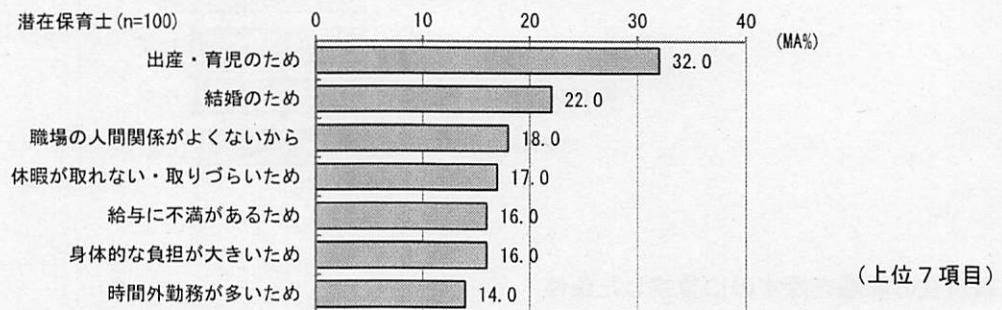
■現在の職場を探すのに重視した条件



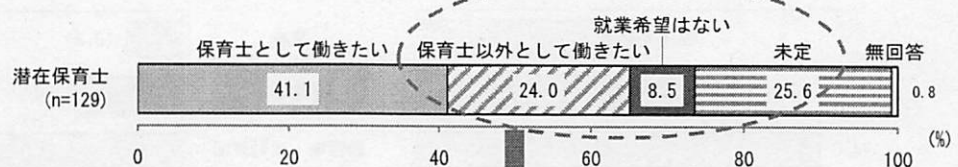
◆保育士としての再就職の意向（潜在保育士）

- 保育士としての勤務経験がある潜在保育士が直近の就業先を退職した理由は、「出産・育児のため」が最も多く、次いで「結婚のため」「職場の人間関係がよくないから」が続く
- 今後の就業意向については、「保育士として働きたい」が4割程度となっている
- 保育士としての就業希望がない理由は、「給与に不満」が最も多く、次いで「出産・子育て・家事・介護など家庭との両立が困難」が続く
- 保育士として働きたい方が職場を探す際に重視する条件は、上位3項目では「労働時間」が最も多く、次いで「雇用形態」「勤務地・通勤時間」が続く
- 保育士として働きたい方が希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」が最も多い
- 再就職に際して最も不安に思うことは、「家事・子育てと仕事の両立」が最も多く、次いで「職場の人間関係」「給与や労働条件等、待遇面」が続く

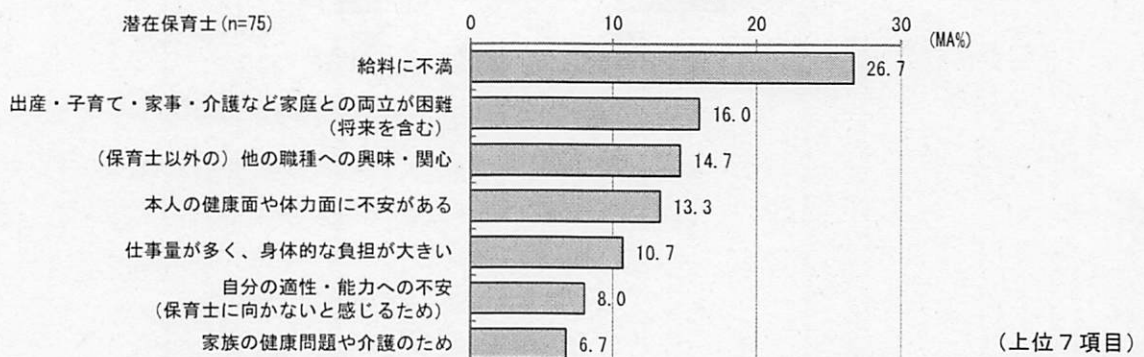
■保育士の勤務経験がある潜在保育士が直近の就業先を退職した理由



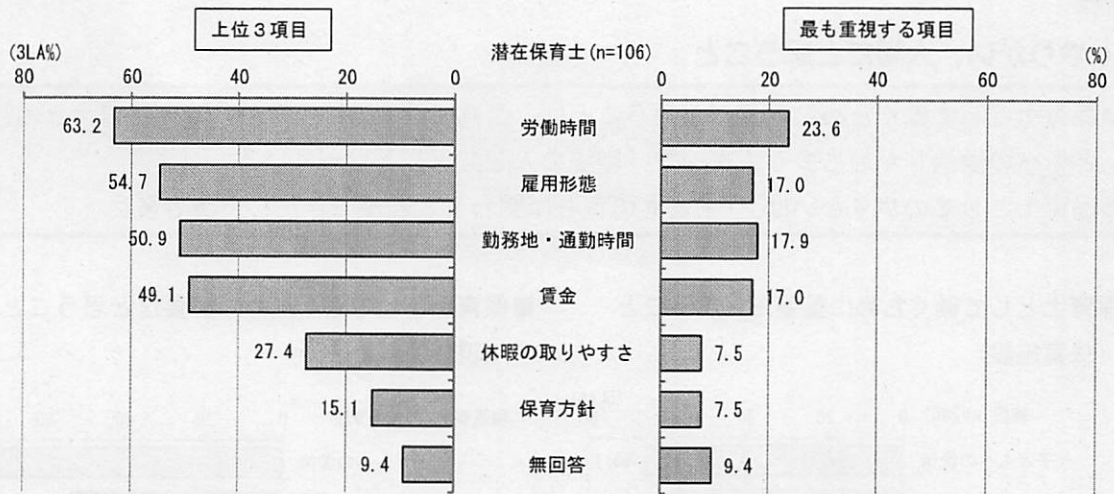
■今後の就業意向



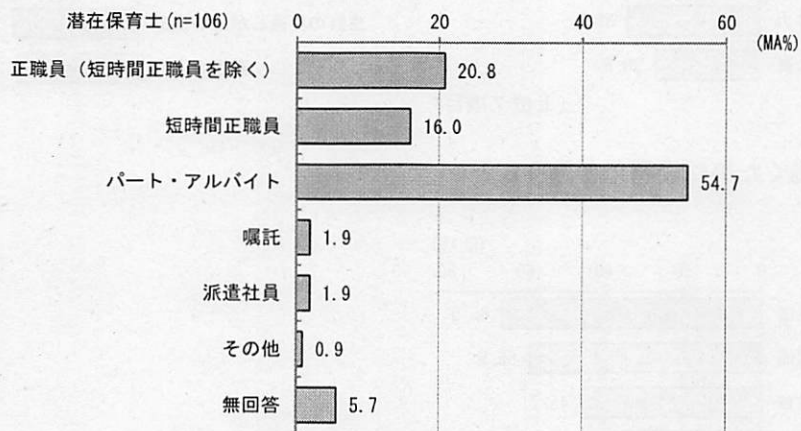
■保育士としての就業希望がない理由



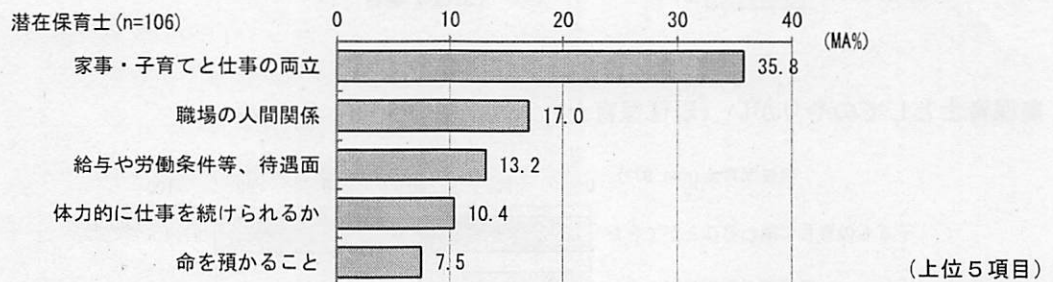
■保育士として働きたい方が職場を探す際に重視する条件



■保育士として働きたい方が希望する雇用形態



■再就職に際して最も不安に思うこと

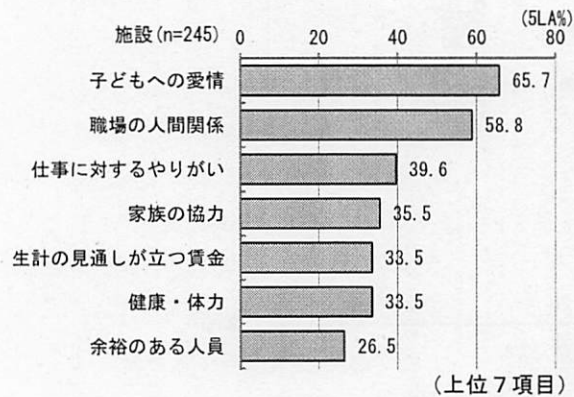


7 やりがい、大切だと思うこと

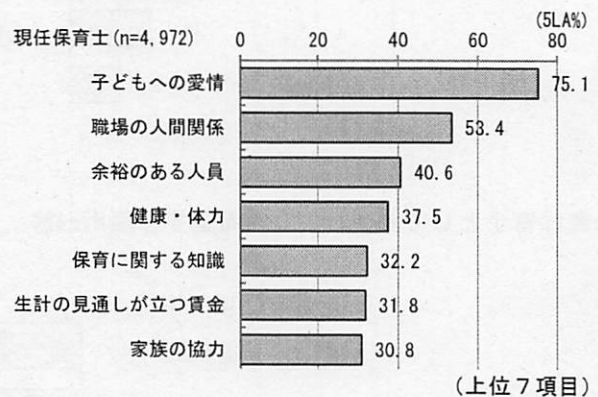
◆ やりがい、大切だと思うこと

- 保育士として働くために重要だと思うことは、保育施設、現任保育士、潜在保育士とも、「子どもへの愛情」が最も多く、次いで「職場の人間関係」となっている
- 保育士としてのやりがいは、「子どもの育ちに関わることができた」が最も多い

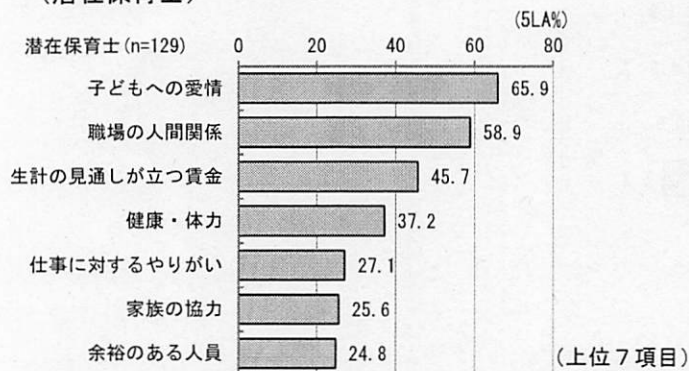
■ 保育士として働くために重要だと思うこと (保育施設)



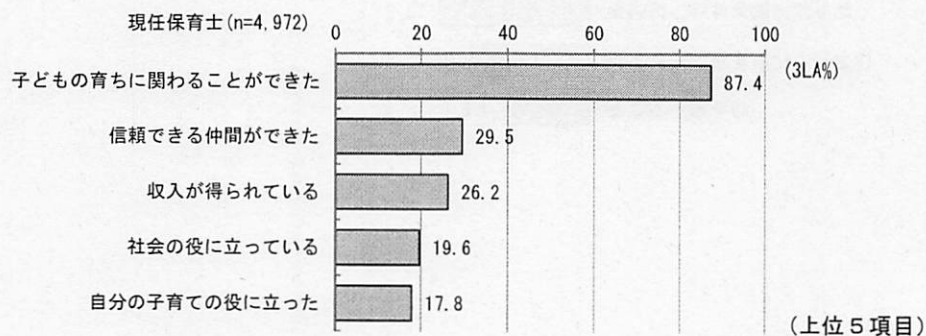
■ 保育士として働くために重要だと思うこと (現任保育士)



■ 保育士として働くために重要だと思うこと (潜在保育士)



■ 保育士としてのやりがい (現任保育士)



Ⅲ 調査結果の概要②

〔4〕 保育士養成施設調査

〔5〕 保育士養成施設学生調査

1 保育士養成施設調査の結果

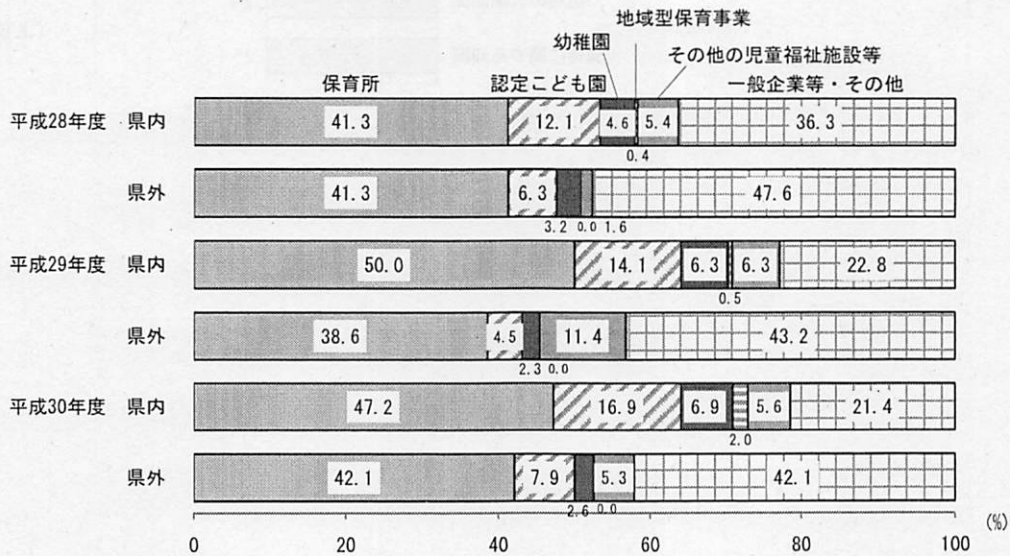
◆回答者の属性

養成施設 (n=5)	(校)		
	大津市	東近江市	長浜市
① 施設の所在市町	2	2	1
② 施設の種別	大学	短期大学	
	2	3	
③ 修業年限	4年制	2年制	
	2	3	

◆卒業生の就職先

●卒業生の就職先の内訳については、県内に就職した学生は、「保育所等」への就職が6～7割台、「一般企業等・その他」への就職が2～3割台となっている。県外に就職した学生は、「保育所等」への就職が5割台、「一般企業等・その他」への就職が4割台となっている

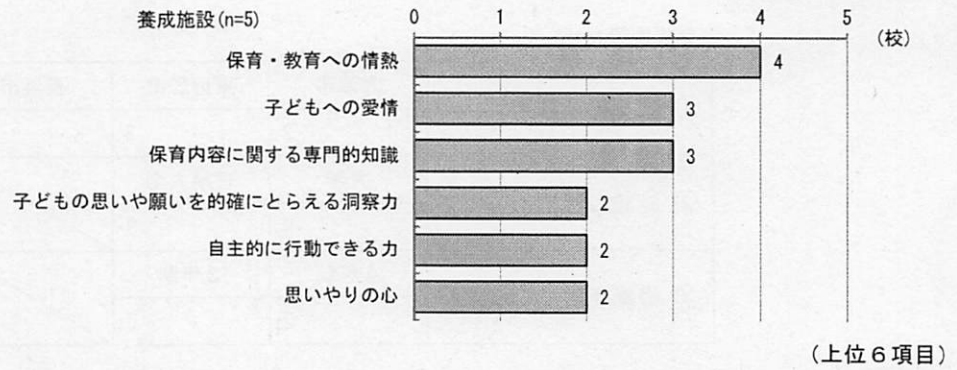
■H28～H30年度の卒業生の就職先（実人数ベース）



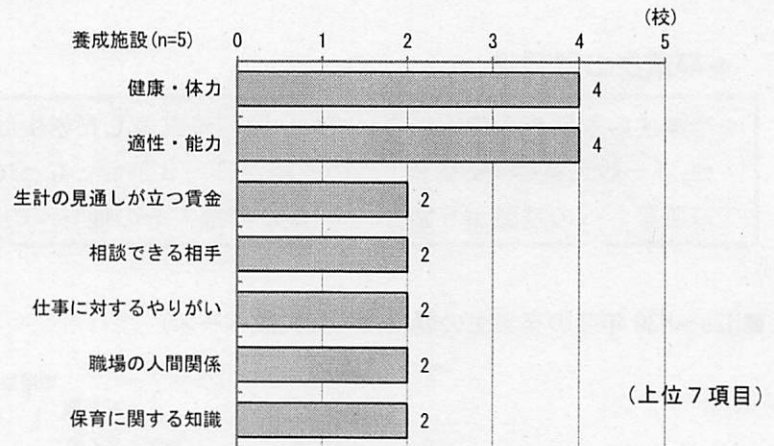
◆学生が身につけるべき資質能力

- 保育士として身につけるべき資質能力は、「保育・教育への情熱」が最も多く、次いで「子どもへの愛情」「保育内容に関する専門的知識」が続く
- 保育士として働くために重要だと思うことは、「健康・体力」「適性・能力」が最も多い

■保育士として身につけるべき資質能力



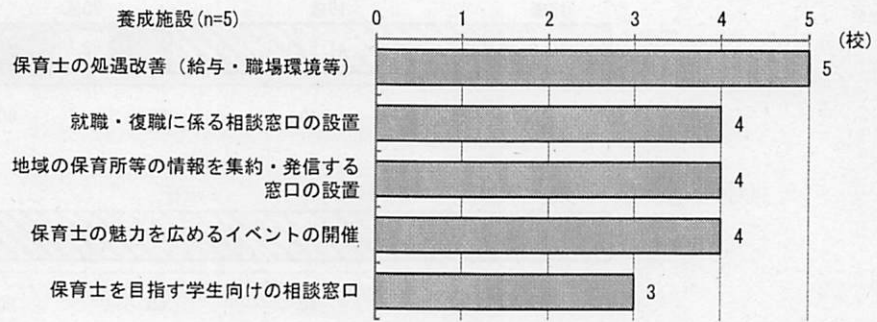
■保育士として働くために重要だと思うこと



◆ 保育士確保のための支援や制度

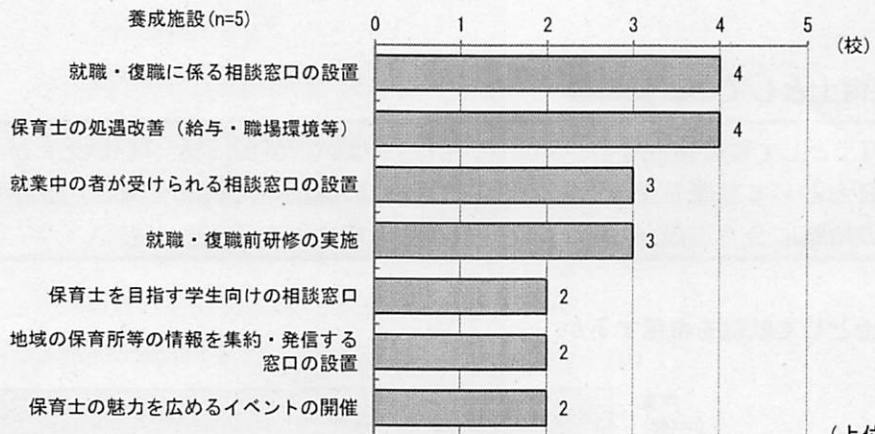
- 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度については、「保育士の処遇改善（給与・職場環境等）」が最も多い
- 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度については、「就職・復職に係る相談窓口の設置」「保育士の処遇改善（給与・職場環境等）」が最も多い

■ 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度



(上位5項目)

■ 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度



(上位7項目)

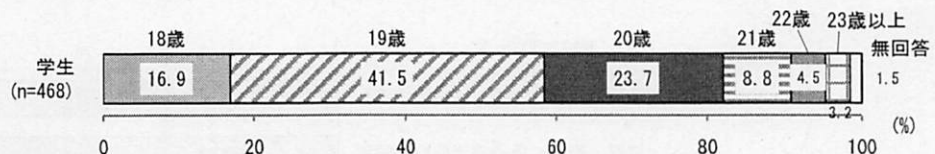
2

保育士養成施設学生調査の結果

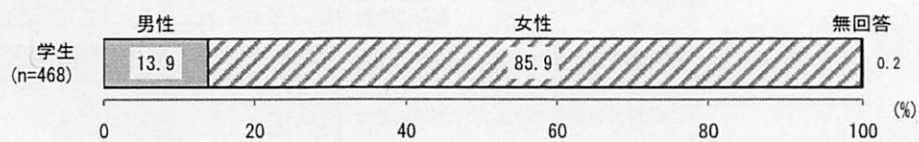
◆回答者の属性

- 回答者の年齢は、「19歳」が最も多く、次いで「20歳」が多い
- 性別は、「男性」が13.9%、「女性」が85.9%となっている
- 学年は、「1年生」が43.8%で最も多く、次いで「2年生」が40.0%となっている

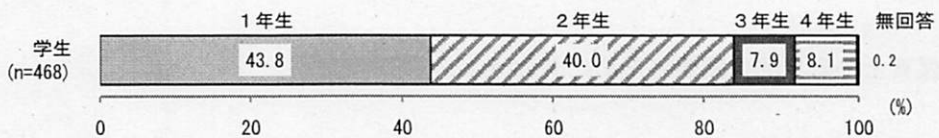
■年齢



■性別



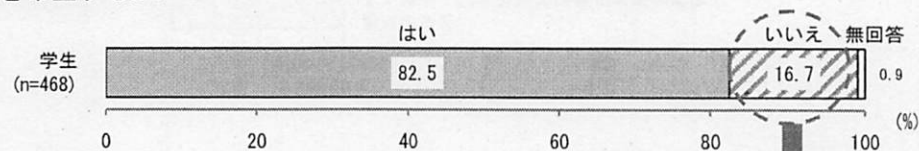
■学年



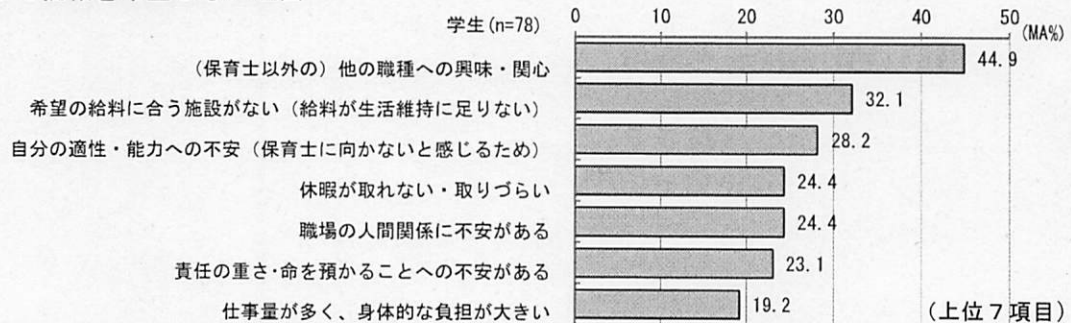
◆保育士としての就職希望

- 保育士として就職を希望するかについては、「はい」が82.5%、「いいえ」が16.7%となっている
- 保育士として就職を希望しない理由は、「他の職種への興味・関心」が最も多く、次いで「希望の給料に合う施設がない」「自分の適性・能力への不安」が多い

■保育士として就職を希望するか



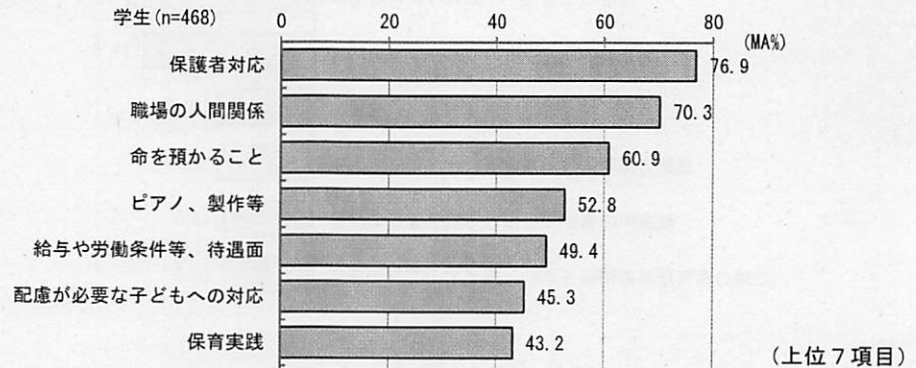
■保育士として就職を希望しない理由



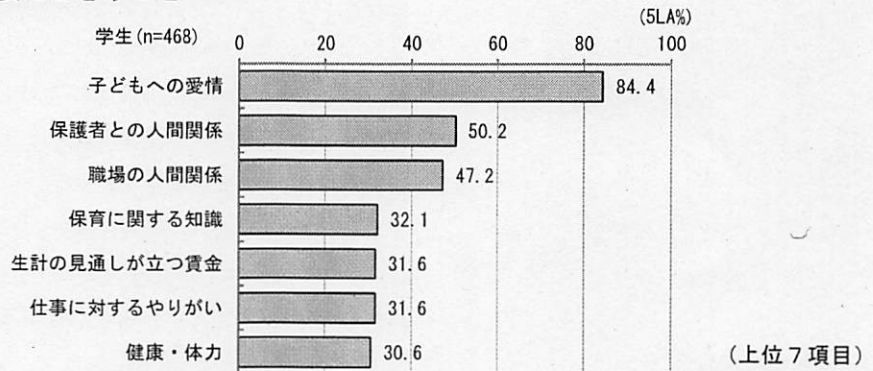
◆保育士を目指す学生の意識

- 保育士になることへの不安は、「保護者対応」が最も多く、次いで「職場の人間関係」「命を預かること」が多い
- 保育士として働くために重要だと思うことは、「子どもへの愛情」が最も多く、次いで「保護者との人間関係」「職場の人間関係」が多い
- 就職先を決める際に重視することは、上位3項目では「賃金」が最も多く、次いで「勤務地・通勤時間」が多い。最も優先する条件では、「勤務地・通勤時間」が最も多い

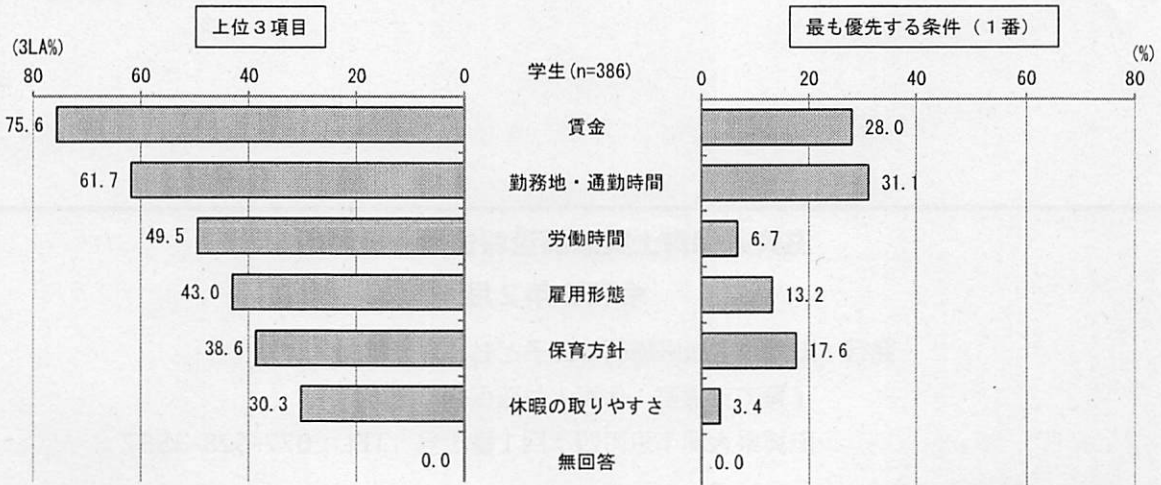
■保育士になることへの不安



■保育士として働くために重要だと思うこと



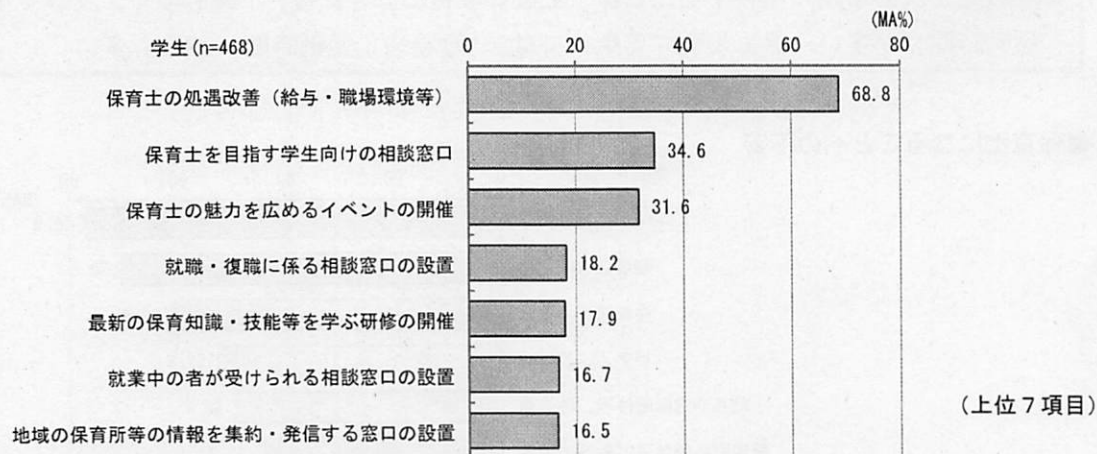
■就職先を決める際に重視すること



◆保育士を目指す学生が増えるような支援や制度

- 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度については、「保育士の処遇改善（給与・職場環境等）」が最も多く、次いで「保育士を目指す学生向けの相談窓口」が多い

■保育士を目指す学生が増えるような支援や制度



滋賀県保育士実態調査報告書 概要版

令和2年2月

発行：滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

子育て支援室 保育人材確保係

滋賀県大津市京町四丁目1番1号 TEL：077-528-3557